

第14回食育推進全国大会inやまなし



開催結果報告書

開催日：令和元年6月29日（土）・30日（日）

会 場：1.メイン会場 山梨県立産業展示交流館アイメッセ山梨
(山梨県甲府市大津町2192-8)

2.サブ会場 甲府駅北口よっちゃばれ広場（山梨県甲府市北口2-2-1）

3.関連イベント 県立の文化施設、市町村の施設 他

主 催：農林水産省、山梨県、甲府市、第14回食育推進全国大会山梨県実行委員会

全体概要	・ ・ ・ ・ ・	1
大会目的・マスコットキャラクター	・ ・ ・ ・ ・	4
ロゴマーク	・ ・ ・ ・ ・	5
大会プログラム	・ ・ ・ ・ ・	6
会場レイアウト図	・ ・ ・ ・ ・	8
開会式	・ ・ ・ ・ ・	10
第3回食育活動表彰受賞事例発表会	・ ・ ・ ・ ・	15
各種イベント	・ ・ ・ ・ ・	29
引継式	・ ・ ・ ・ ・	41
出展ブース	・ ・ ・ ・ ・	44
新聞記事・広告、テレビCM	・ ・ ・ ・ ・	81
大会アンケート	・ ・ ・ ・ ・	89
実行委員会設置要綱	・ ・ ・ ・ ・	99
実行委員会名簿	・ ・ ・ ・ ・	101
実行委員会幹事会名簿	・ ・ ・ ・ ・	102
会議の開催について	・ ・ ・ ・ ・	103
協賛団体・企業一覧	・ ・ ・ ・ ・	104

大会名称	第14回食育推進全国大会inやまなし		
主催	農林水産省、山梨県、甲府市、第14回食育推進全国大会山梨県実行委員会		
大会テーマ	「食がつなぐ人と未来 ～健康寿命日本一の富士の国やまなしから全国へ～」		
後援	内閣府、消費者庁、文部科学省、厚生労働省、全国知事会、全国都道府県議会 議長会、全国市長会、全国市議会議長会、全国町村会、全国町村議会議長会		
日時	令和元年6月29日(土) 10:00～17:00 令和元年6月30日(日) 10:00～16:00		
会場	メイン会場 山梨県立産業展示交流館アイメッセ山梨 (山梨県甲府市大津町2192-8) サブ会場 甲府駅北口よっちゃばれ広場 (山梨県甲府市北口2-2-1) 関連イベント 県立の文化施設、市町村の施設 他		
来場者数	21,500人 (当初目標 約20,000人)		
入場料	無料		
出展参加数	メイン会場	講演会等イベント 出展ブース	26コマ 140ブース
	サブ会場	イベント 出展ブース	7コマ 11ブース



■メイン会場
アイメッセ 山梨外観



■サブ会場
甲府駅北口よっちゃばれ広場

メイン会場：アイメッセ山梨

【屋内展示場】

- ①**ホールA** : 開会式、シンポジウム、トークショー、食育展示ブース 他
- ②**ホールB** : 食育展示ブース
- ③**ホールC** : 「やまなしの食」振る舞いタイム、親子料理教室、食育展示ブース

【1 F 交流サロン】

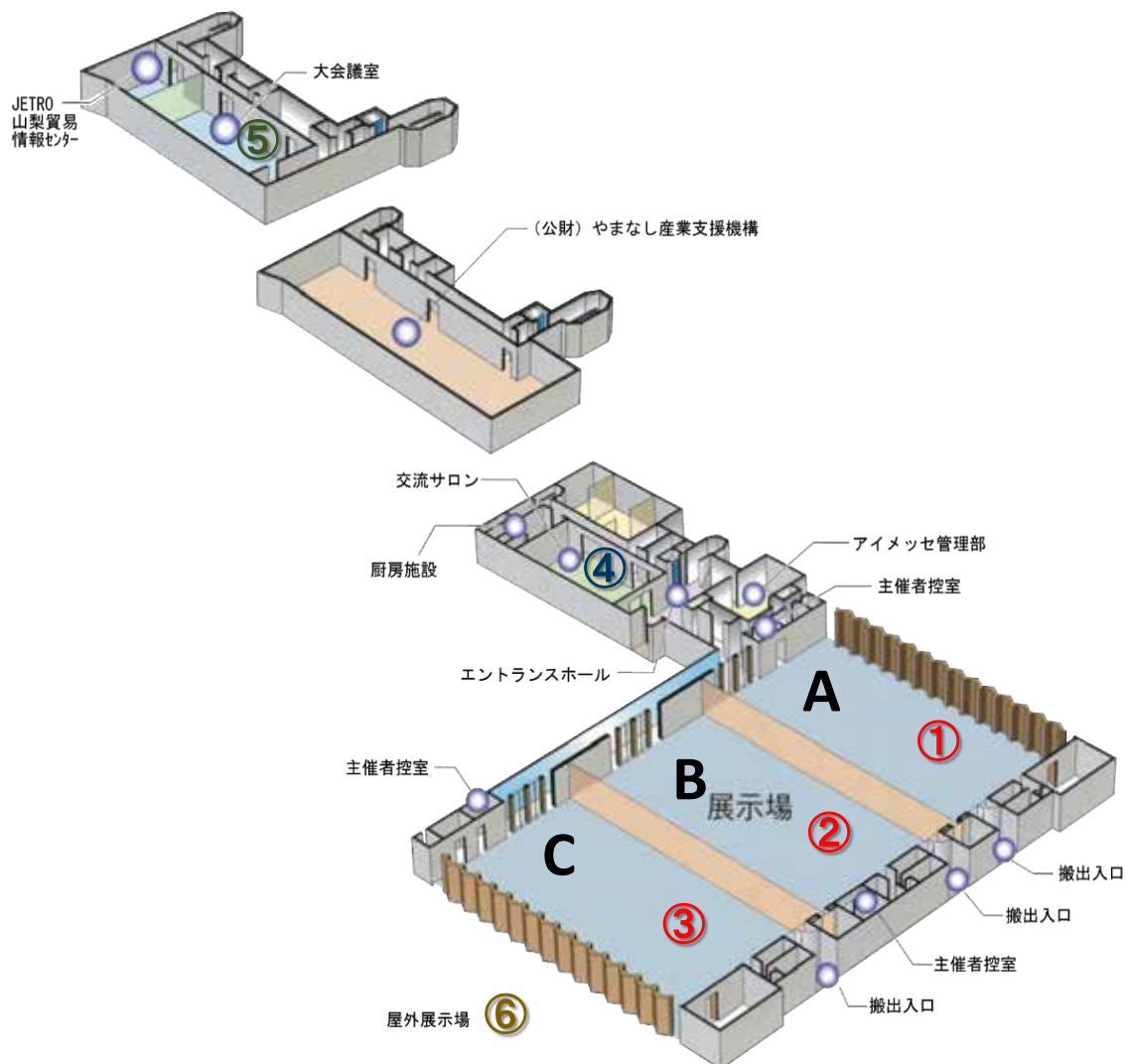
- ④**交流サロン** : 来賓控え室、講演会、ワークショップ など

【4 F 大会議室】

- ⑤**大会議室** : 講演会、ワークショップ など

【屋外展示場】

- ⑥**屋外エリア** : 飲食・物販ブース、収穫体験ツアー発着 など



サブ会場：甲府駅北口よっちゃんばれ広場

【ステージエリア】

：アスリートトークショー、ステージイベント 等

【出展エリア】

：食育に関する出展ブース（展示、販売、試食など）

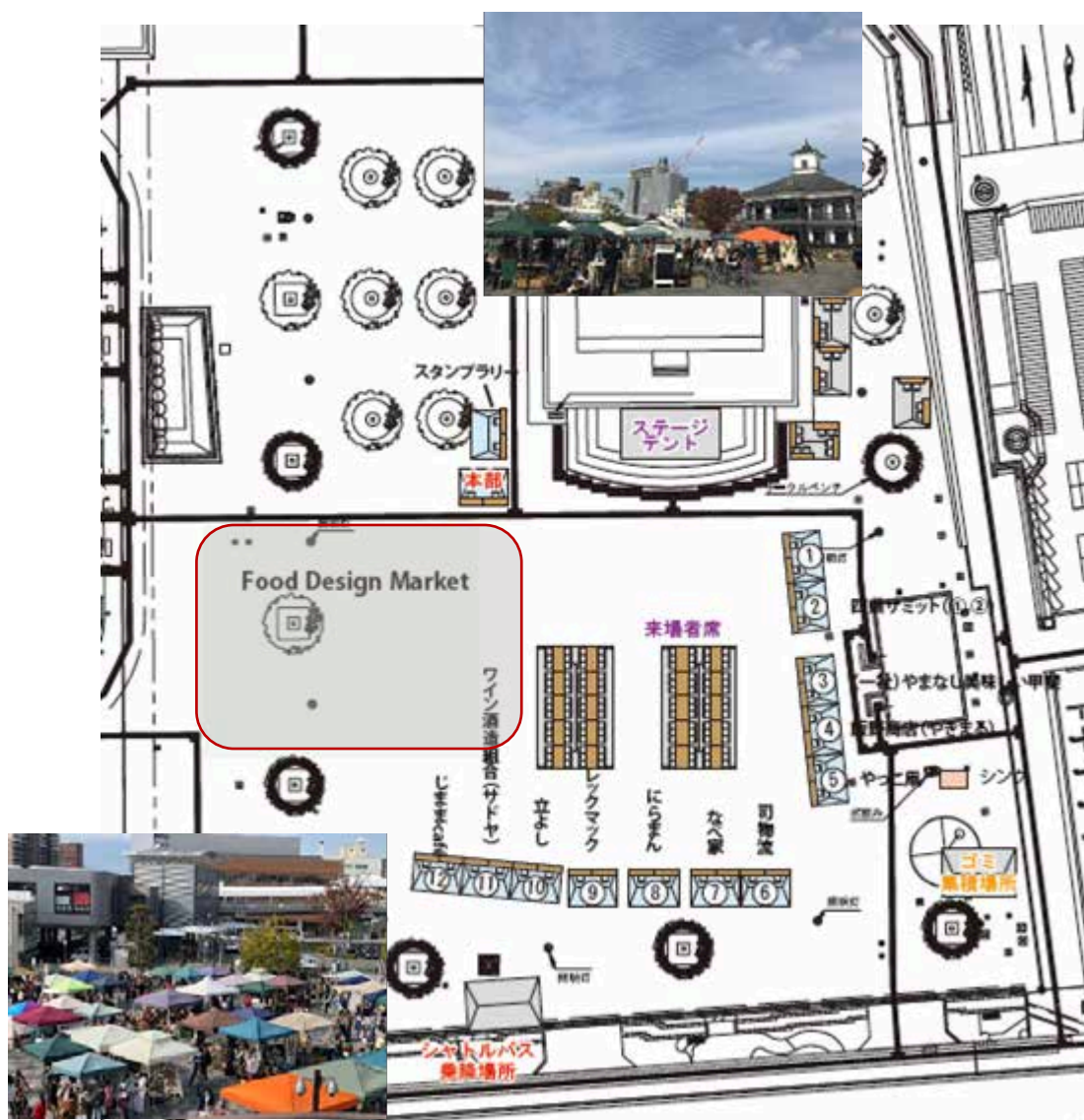
：中央日本四県サミット（新潟、山梨、長野、静岡）

「一皿で中央四県地鶏制覇」

【他団体の出展エリア】

：他団体（フード デザイン マーケット）のイベントを同時開催。

関連イベントとして位置づけ、共に盛り上げ効果を図る。



大会目的

山梨県では、平成28年3月に「第3次やまなし食育推進計画」を策定し、すべての県民が、生涯を通じて心身共に健康で生き生きと暮らしていくため、県民一人ひとりが、食に関する正しい知識と理解を深め、生涯にわたって健全な食生活が実現できることを目指し、行政、関係者、ボランティア等が、相互に連携・協力しながら、食育県民運動を展開して参りました。

平成30年度からは、本県の食文化を次世代に継承するとともに、地域の活性化や観光振興につなげるため、本県の特徴ある郷土食等を「やまなしの食」として認定し、特選やまなしの食クイズやシンポジウムの開催、食の伝承マイスターを認証するなど「食による地域の魅力再発見事業」に取り組んでおります。

また甲府市では、平成31年に開府500年を迎えるとともに、中核市に移行するという大きな節目を迎えます。このような機会を大きなチャンスととらえ、「元気 City こうふ」を目指しております。

そのような中で、「甲府市食育推進計画」においては、「風林火山」になぞらえた、「ふう（フードで心も体も健康）」「りん（林・農を身近に感じ地産地消の推進）」「か（考える力を培い、食への感謝の心を醸成）」「ざん（残食・ゴミを少なくし、環境にやさしい食生活）」という4つの基本施策のもと、健康的な食生活のみならず、環境への配慮など、食べ物を取り巻く様々な知識や理解を深めるための食育推進事業に取り組んでおります。

本大会を契機に、県民の食育への理解をより一層深め、食育に取り組む関係機関、関係団体、民間企業、ボランティア等が互いに連携を促進し、食育県民運動を大きく加速させるとともに、豊かで特色ある食文化や農産物、豊富で良質な水、健康寿命日本一の実績など本県の魅力を広く全国に情報発信することを目的とします。

大会テーマ・マスコットキャラクター

食がつなぐ人と未来

～健康寿命日本一の富士の国やまなしから全国へ～



大会マスコットキャラクター「ふじべろりん」

ロゴマーク

◆デザインコンセプト◆

山梨の代表的な農産物である「桃」「ぶどう」を配置しやまなしらしさを演出。
ぶどうと桃のシルエットから「山梨県」のシルエットも想起していただけるようにレイアウト。
大会イメージキャラクター「ふじペろりん」も配置し、全体的にカラフルな配色で印刷物や看板などに利用しても目立つことを意識したデザインとした。



6/29(土) 10:00~17:00

TIME

10:00 10:30 11:00 11:30 12:00 12:30 13:00 13:30 14:00 14:30 15:00 15:30 16:00 16:30 17:00

ホールA

10:30~12:00

開会式・
第3回食育活動表彰
表彰式

主催:農林水産省

13:00~14:30

第3回食育活動表彰
受賞事例発表会
~食がつなぐ人と未来~

主催:農林水産省

15:00~16:00

食品ロス削減
トークショー
ゲスト:石田ひかり氏

ホールC

10:30~12:00

「やまなしの食」
振る舞いタイム
~山梨の郷土食を
試食提供~

協力:県食生活改善推進員連絡協議会

14:30~16:00

「やまなしの食」
振る舞いタイム
~山梨の郷土食を
試食提供~

協力:県食生活改善推進員連絡協議会



ABCクッキングスタジオによる県産食材を使った親子料理教室

講師:ABCクッキングスタジオ 主催:農林中央金庫・JAバンク山梨

1日5回開催予定

1F交流サロン

14:30~15:40

講演・実演
「味覚チェック
してみませんか?」

主催:山梨学院大学

4F大会議室

10:30~11:15

講演
「タニタの
健康セミナー
~タニタ食堂に学ぶ
500kcalの
まんぷく定食のコツ~」主催:
(株)タニタヘルスリンク

13:00~14:30

「やまなしの食」を
考えるシンポジウム基調講演
「郷土食の再生からの新たな展開」
服部幸應氏 他

15:00~16:10

実演
「五感と心で味わう
体験型教室」主催:学習院女子大学
フードコンシャネス
プロジェクト

バスツアー

10:30~11:00
11:00~11:30スイートコーン
収穫体験ツアー

TABLE

6/30日 10:00~16:00

10:00 10:30 11:00 11:30 12:00 12:30 13:00 13:30 14:00 14:30 15:00 15:30 16:00 16:30 17:00

ホールA

10:15~11:30
食育推進シンポジウム
「食とスポーツアスリート
トークショー」
ゲスト
今中大介氏 × 日向涼子氏



12:00~12:45
それいけ!
アンパンマン
ショー



13:00~14:30
講演「ギョギョツ山梨の
おいしいお魚のお話し」
講師:さかなクン
主催:農林中央金庫・JAバンク山梨



14:35
~
14:50
引継式

15:00~15:45
それいけ!
アンパンマン
ショー



ホールC

10:30~12:00
「やまなしの食」
振る舞いタイム
~山梨の郷土食を
試食提供~
協力:県食生活改善推進員連絡協議会

14:30~16:00
「やまなしの食」
振る舞いタイム
~山梨の郷土食を
試食提供~
協力:県食生活改善推進員連絡協議会



ABCッキングスタジオによる県産食材を使った親子料理教室
講師:ABCッキングスタジオ 主催:農林中央金庫・JAバンク山梨
1日5回開催予定

1F 交流サロン

10:30~12:30
講演・実演「おいしい」の
仕組みを学ぶ味覚教室」
主催:(一社)甲府市歯科医師会

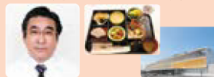


13:20~14:00
人形劇・講座
「お野菜の
パワーを
伝えたい!
お野菜と
仲良くなろう!」
主催:にっこりページ団

14:30~15:15
講演
「穀物を知ろう!
大麦・雑穀の
チカラ」
主催:(株)はくばく

4F 大会議室

10:30~12:00
講演「食育セミナー
健康寿命の延伸と
食育の重要性」
講師:キッコーマン総合病院
院長 久保田芳郎氏
主催:農林水産省 関東農政局



13:00~14:00
講演
「スポーツ栄養
~スポーツ少年団の
ための持久力を
伸ばす食事~」
主催:
(公社)山梨県栄養士会

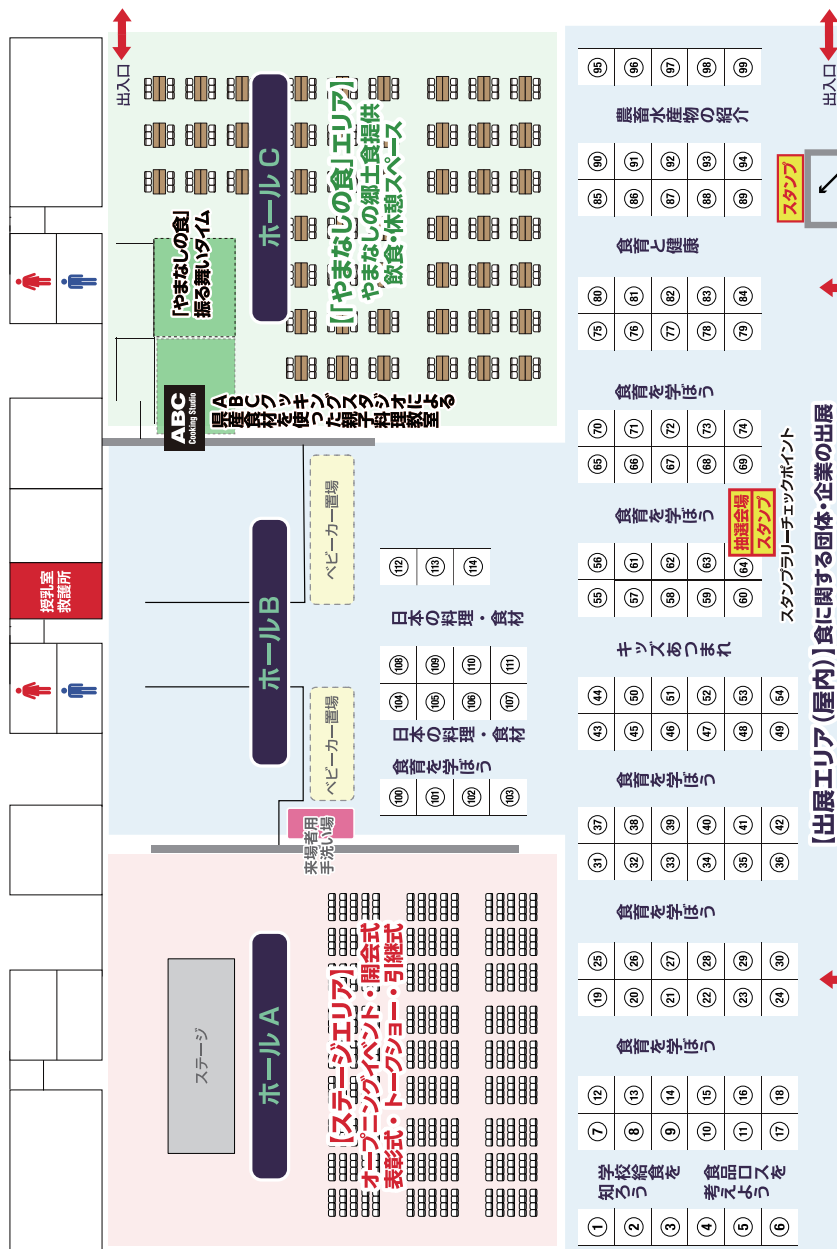
14:30~15:30
講演
「高齢者の
低栄養(やせ過ぎ)
を防ごう」
主催:
(公社)山梨県栄養士会

バスツアー

10:30~11:00
11:00~11:30
スイートコーン
収穫体験ツアー



メイン会場(アイメッセ山梨・屋内会場)



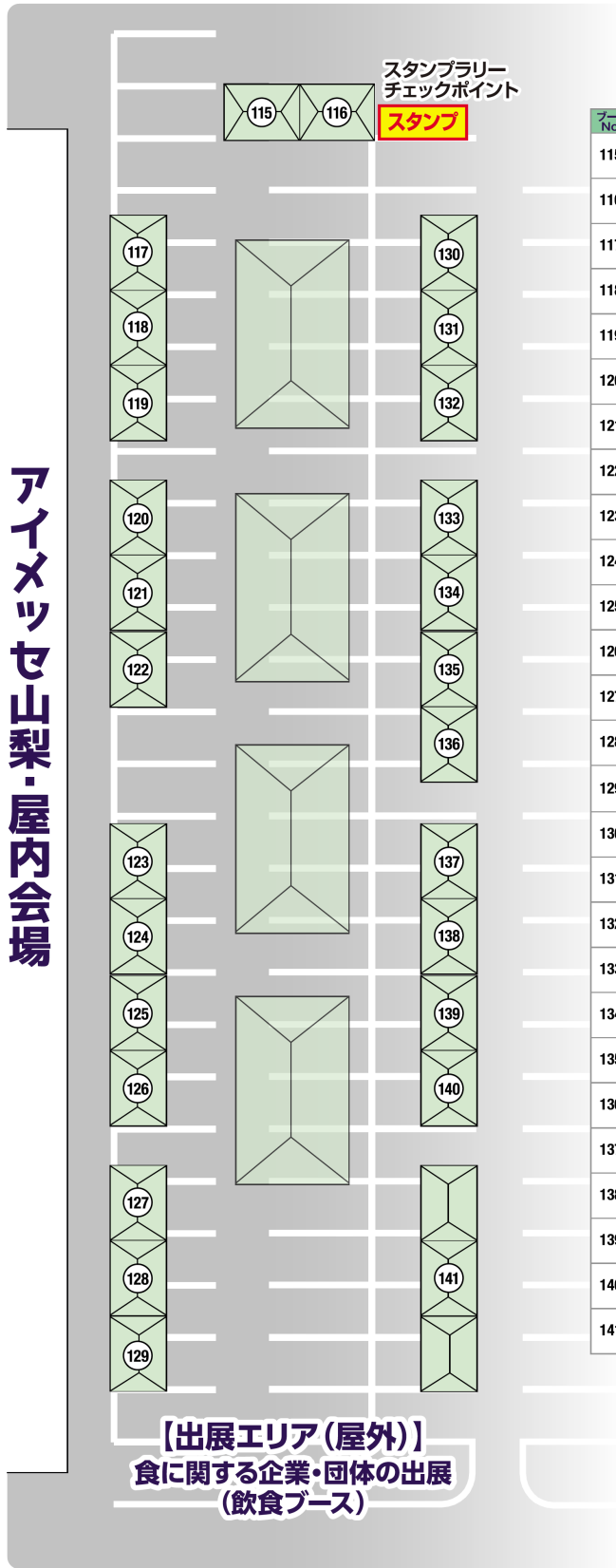
トースト・パン・ケーキ・デザート

[illegible]

No.	出席者名	出席概要
33	(一社)Onetudo	夢をカタチに！手助けがみんなできつくするおたけの食育
34	東京都 墨田区	食育がみんなが、みんなでかたちづくる。食育の楽しさ
35	すみだ食育サポート	食育の楽しさ、いざという時に役立つ商品。
36	食育協会(株)	みんなの食育を応援、てまよ(1)料理クイズ
37	学習院国際経営学部食文化IT研究科	みんなでまよよう！食育クイズ
38	日本食文化研究所	知育食育活動の新しい切り口がない！身体づくり
39	日本食文化研究所	みんなの食育活動の新しい切り口がない！身体づくり
40	すみだ食育サポート	みんなの食育活動の新しい切り口がない！身体づくり
41	(公社)日本食文化協会	みんなの食育活動の新しい切り口がない！身体づくり
42	生活協同組合(有)オアシス山梨	子どもの食育活動の新しい切り口がない！身体づくり
43	生活協同組合(有)オアシス山梨	子どもの食育活動の新しい切り口がない！身体づくり
44	(一社)オアシス山梨市議会	子どもの食育活動の新しい切り口がない！身体づくり
45	食育協会(株)	子どもの食育活動の新しい切り口がない！身体づくり
46	食育協会(株)	子どもの食育活動の新しい切り口がない！身体づくり
47	東京都立南葛城高等学校	子どもの食育活動の新しい切り口がない！身体づくり
48	東京都立南葛城高等学校	子どもの食育活動の新しい切り口がない！身体づくり

No.	出席者名	出席概要
17	川崎 哲	出席
18	エンガ川崎(海外勤務)	出席
19	(一)日本エレクトロニクス工業会	出席
20	(一)全国オートメイト工業会	出席
21	朝日の子役会	出席
22	「国際労働関係者委員会」(公)日本労働組合法	出席
23	「労働関係経理者センター」(公)日本経営者連合会	出席
24	東京労働局 北海道労働事務所	出席
25	東京労働局 文化・市民関係課	出席
26	東京労働局 労働関係課 東京都労働局	出席
27	労働局 労働関係課 東京都労働局	出席
28	若狭労働関係センター(公)三岐労働局	出席
29	(一)三岐労働局 労働関係課	出席
30	三岐労働局 労働関係課	出席
31	東京労働局 労働関係課	出席
32	東京労働局 労働関係課	出席
33	東京労働局 労働関係課	出席
34	東京労働局 労働関係課	出席
35	東京労働局 労働関係課	出席
36	東京労働局 労働関係課	出席
37	東京労働局 労働関係課	出席
38	東京労働局 労働関係課	出席
39	東京労働局 労働関係課	出席
40	東京労働局 労働関係課	出席
41	東京労働局 労働関係課	出席
42	東京労働局 労働関係課	出席
43	東京労働局 労働関係課	出席
44	東京労働局 労働関係課	出席
45	東京労働局 労働関係課	出席
46	東京労働局 労働関係課	出席
47	東京労働局 労働関係課	出席
48	東京労働局 労働関係課	出席
49	東京労働局 労働関係課	出席
50	東京労働局 労働関係課	出席
51	東京労働局 労働関係課	出席
52	東京労働局 労働関係課	出席
53	東京労働局 労働関係課	出席
54	東京労働局 労働関係課	出席
55	東京労働局 労働関係課	出席
56	東京労働局 労働関係課	出席
57	東京労働局 労働関係課	出席
58	東京労働局 労働関係課	出席
59	東京労働局 労働関係課	出席
60	東京労働局 労働関係課	出席
61	東京労働局 労働関係課	出席
62	東京労働局 労働関係課	出席
63	東京労働局 労働関係課	出席
64	東京労働局 労働関係課	出席
65	東京労働局 労働関係課	出席
66	東京労働局 労働関係課	出席
67	東京労働局 労働関係課	出席
68	東京労働局 労働関係課	出席
69	東京労働局 労働関係課	出席
70	東京労働局 労働関係課	出席
71	東京労働局 労働関係課	出席
72	東京労働局 労働関係課	出席
73	東京労働局 労働関係課	出席
74	東京労働局 労働関係課	出席
75	東京労働局 労働関係課	出席
76	東京労働局 労働関係課	出席
77	東京労働局 労働関係課	出席
78	東京労働局 労働関係課	出席
79	東京労働局 労働関係課	出席
80	東京労働局 労働関係課	出席
81	東京労働局 労働関係課	出席
82	東京労働局 労働関係課	出席
83	東京労働局 労働関係課	出席
84	東京労働局 労働関係課	出席
85	東京労働局 労働関係課	出席
86	東京労働局 労働関係課	出席
87	東京労働局 労働関係課	出席
88	東京労働局 労働関係課	出席
89	東京労働局 労働関係課	出席
90	東京労働局 労働関係課	出席
91	東京労働局 労働関係課	出席
92	東京労働局 労働関係課	出席
93	東京労働局 労働関係課	出席
94	東京労働局 労働関係課	出席
95	東京労働局 労働関係課	出席
96	東京労働局 労働関係課	出席
97	東京労働局 労働関係課	出席
98	東京労働局 労働関係課	出席
99	東京労働局 労働関係課	出席
100	東京労働局 労働関係課	出席

No.	出 発 者 名	出 展 要 要
1	(公)全国学校保健体育協議会	子供たちの健康の更なる充実をめざして
2	(公)全国学校保健体育協議会	子供たちの健康の更なる充実をめざして
3	高校教師を志す会	公認高校入学者試験の普及と進路アドバイザーの養成
4	文部科学省	公立高校の学習と生活に関する調査
5	経団連 松井社	松井社の学習と生活に関する調査と出版
6	読者のための入会者パンフレット出版	いろいろな読者の意見と出版に関する調査
7	全国学校保健体育協議会	読者のパンフレット出版に関する調査
8	(株)研光社	読者のパンフレット出版に関する調査
9	(公)全国学校保健体育協議会	読者のパンフレット出版に関する調査
10	全国学校保健体育協議会	読者のパンフレット出版に関する調査
11	(公)全国学校保健体育協議会	読者のパンフレット出版に関する調査
12	(公)全国学校保健体育協議会	読者のパンフレット出版に関する調査
13	(公)全国学校保健体育協議会	読者のパンフレット出版に関する調査
14	(公)全国学校保健体育協議会	読者のパンフレット出版に関する調査
15	(公)全国学校保健体育協議会	読者のパンフレット出版に関する調査
16	(公)全国学校保健体育協議会	読者のパンフレット出版に関する調査



屋外展示場

ブースNo.	出展者名	出展概要
115	山梨県立笛吹高等学校	農と食～笛高生徒の挑戦～
116	山梨県立ひばりが丘高等学校うどん部	富士吉田市のソルフード吉田のうどん見参
117	ちば食・良品	本まぐろのトロうま煮干菜の醤油仕込み
118	甲州地どり市場	山梨県で改良した美味しい鶏肉を食べてください
119	(有)山の湯宿はまやらわ	山梨の名水を利用したわらび餅
120	甲府市(JA山梨みらい)	採れたて！新鮮！農産物～えらい良いじゃん甲府ブランド～
121	甲府市(風土記の丘農産物直売所)	採れたて！新鮮！農産物～えらい良いじゃん甲府ブランド～
122	甲府市(上九ふれあい農産物直売所) こうふ島500年	採れたて！新鮮！農産物～えらい良いじゃん甲府ブランド～
123	オーガニックフェスタやまなし実行委員会／やまなし有機農業連絡会議	うちの畑においでよ！
124	(株)テンヨ武田・武田食品(株)	地産・地消の食育活動の紹介、販売
125	(株)桔梗屋	黒蜜ときな粉にこだわった「桔梗信玄餅と仲間達」
126	JAグループ山梨	山梨を食べよう！！「旬」な農産物・加工品を販売
127	リニア中央新幹線建設促進山梨県期成同盟会	2027年の開業が迫るリニア中央新幹線のPR
128	(公社)やまなし観光推進機構	観光案内及び観光/パンフレット配布
129	第4回「山の日」記念全国大会Yamanashi(山梨県森林環境総務課)	8/11(日・祝)開催の「山の日」記念全国大会を紹介！
130	山梨県パン協同組合	美味しいやまなしをはさんじゃお
131	(株)東平商会	三島市・伊東市・長泉町・函南町の特産品を使用したご当地グルメ
132	金精軒製菓(株)	山梨が誇る梨北米の美味しさを伝えたい
133	(有)ピーチ専科ヤマシタ 桃農家Café ラベスカ	今「桃」の時期！！食べて！！収穫したばかりの「桃」と作りたて「桃」シェラートを
134	あわびの煮貝 (株)かいや	栄養価満点な、山梨県の伝統的な名産品です。
135	清泉寮ジャージー牧場	有機JAS認定ジャージーミルク 乳製品試飲・販売コーナー
136	(株)山梨中央銀行 アグリビジネススクール	アグリビジネススクールの受講生が、農産物・地域特産品を販売します！
137	(株)シャトレーゼ	シャトレーゼのこだわり「健康に配慮したお菓子づくり」
138	(株)澤田屋	日本の伝統行事や文化、歴史をお菓子を通して伝えていきます。
139	(有)萩原製菓	韭崎の郷土菓子・県産食材を使用した商品PR
140	ハーブ研究所ミルキーハウス	山梨の風土＆フード「長寿やこめ＆薬膳ほうとう」
141	東京オリンピック・パラリンピック山梨県実行委員会	オリパラへの県内取組、本県開催自転車ロードレースの情報発信。

※出展者・出展概要など、予告なく変更となる場合がございます。予めご了承ください。

【オープニングアクト】

出演：甲府市立甲府商業高等学校ソングリーダー部



【主催者挨拶】

農林水産省 消費・安全局長 新井ゆたか

<概要>

第14回食育推進全国大会は開催地の山梨県および甲府市を共同開催者として、また、様々な形で食育推進に貢献されている全国の方々のご協力により、本日開催の運びとなりました。

私たちの食生活は自然の恩恵の上に成り立っており、食に関わる人々の様々な活動に支えられています。国民一人ひとりが食育の推進に向け協働していくことがますます重要になっていくと感じています。

今大会のテーマは、「食がつなぐ人と未来～健康寿命日本一の富士の国やまなしから全国へ～」です。今年度の食育白書においても健康寿命の延伸を特集しており、食育活動が日々の食生活につながっていくことが重要と考えています。今大会で様々な体験をしていただき、明日の食生活に生かしていただきたいと思います。

また、この度、全国各地で食育の推進に顕著な実績を挙げられた方々を表彰する表彰式も行います。全国から多くの応募をいただき、その中から選ばれた方々に受賞のお祝いを申し述べると共に、今後も活動を続けていただきたいと思います。

最後に今大会の開催にご尽力いただいた大会実行委員会をはじめ山梨県および甲府市の関係者の方々に心からお礼申し上げますと共に、2日間にわたる大会が成功をおさめ、全国各地で食育がますます推進されることを祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。



【主催者挨拶】
山梨県知事 長崎 幸太郎

<概要>

本日はようこそ山梨県へお越しくださいました。皆さまのお越しを心より歓迎申し上げます。本県は、世界遺産富士山を擁する富士の国であり、また、健康寿命が男女とも日本一の県です。山梨県におきましては、県民の皆さまが生涯を通じて心身共に健康で生き生きと暮らしていくために、食に関する正しい知識と理解を深め、生涯にわたって健全な食生活の実現ができるように、食育県民運動を熱心に、積極的に推進しております。中でも特色ある郷土食を「やまなしの食」として認定するなど、山梨県の食文化を次世代へ継承すると共に、地域の活性化につながる取組を積極的に推進しているところです。

今日から2日間、本大会を通じて、「やまなしの食」の魅力を全国の皆さまに余すところなくお伝えしていきたいと考えております。また、食育に関する様々なテーマについて、じっくりかつ楽しく学び合うことができる有意義な機会となるよう期待しています。

結びに、本大会の開催にあたりご尽力いただいた関係者の皆さまに心から感謝を申し上げ、お集まりの皆さまのますますのご健勝ご多幸を祈念して、ご挨拶とさせていただきます。



甲府市長 樋口 雄一

<概要>

本日は全国各地からここ山梨県甲府市にようこそお越しくださいました。心から歓迎を申し上げます。本市では本年3月に策定した第3次食育推進計画におきまして、心身の健康増進と豊かな人間形成を目指し、食料の生産から消費、さらには廃棄に至るまでの過程を、武田信玄公の軍旗に書かれている風林火山になぞらえ、整理をし、食育の推進に取り組んでいるところです。また、本大会では健康長寿日本一の一翼を担う様々な食育の取組の紹介や、体験を行うブースを設けていますので、ぜひお立ち寄りいただければ幸いです。

本大会は食がつなぐ人と未来をテーマに掲げており、あらゆる世代の方々が食育を楽しく学び、体験し、食育への理解を深めていただくとともに、幅広い分野の方々が交流を深める機会としていただけると、本市としても大変ありがたく存じます。

結びに、本大会の開催にあたり、ご尽力いただいた全ての関係者の皆さまに心から感謝を申し上げます。本日ご参加の皆さまのますますのご健勝ご多幸を心から祈念申し上げご挨拶とさせていただきます。



【来賓祝辞】（敬称略）
参議院議員 山東 昭子

<概要>

毎年6月に楽しみにしている食育推進全国大会。関係の皆さま方によって、このように賑やかに開催され本当にうれしく思っています。また、長い間食育活動に取り組み、本日表彰される方々、おめでとうございます。

食育基本法が策定され14年。食育という言葉がだいぶ浸透してきました。これから人生100年時代を向かえ、これからの食育の中で大切にしていきたいのは減塩運動。これが一番のことではないかと思います。40兆円を超す医療費の増大、これを少しでもなくすためにはバランスの良い食生活、その中でも減塩は大切ではないかと思います。

なお一層皆さま方の活動をこれからもお願い申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



【来賓紹介】（敬称略）



- 衆議院議員 中谷 真一
- 衆議院議員 宮川 典子
- 衆議院議員 堀内 詔子
- 衆議院議員 中島 克仁
- 参議院議員 森屋 宏
- 参議院議員 宮沢 由佳
- ※代理：秘書 山根 睦弘
- 山梨県議会議員 大柴 邦彦
- 甲府市議会議員 金丸 三郎
- 食育推進評価専門委員会座長 服部 幸應
- 食育活動表彰審査委員長 中嶋 康博

【第3回食育推進活動表彰 表彰式】

農林水産省はボランティア活動、教育活動、農林漁業、食品製造・販売等その他の事業活動を通じた食育関係者の取組を対象として、その功績を称えとともに、その取組の内容を広く国民に周知し、食育を推進する優れた取組が全国に展開されていくことを目的として、食育活動表彰を実施しています。

今年度は応募のありました個人・団体のうち、特に優れていた7組に農林水産大臣賞、14組に消費・安全局長賞を授与しました。

<受賞団体・受賞者>

○農林水産大臣賞

- ・ 洋野町食生活改善推進員協議会
- ・ おかず味噌汁健やか力向上委員会
(公立大学法人 青森県立保健大学)
- ・ 山梨県立ひばりが丘高等学校 うどん部
- ・ 気まぐれ八百屋だんだん
- ・ 有限会社蔵王マウンテンファーム
- ・ 大阪いずみ市民生活協同組合
- ・ 元気さばえ食育推進会議

○消費・安全局長賞

- ・ 浜田市食生活改善推進協議会
- ・ 北九州市八幡西区食生活改善推進員協議会
- ・ 薬膳・食育ボランティア部 (中村学園大学)
- ・ 石川県立看護大学 垣花渉ゼミ
- ・ 特定非営利活動法人 食育ママ
- ・ 大府市健康づくり食育推進協議会
- ・ 山梨学院短期大学
- ・ 学校法人睦美学園 睦美幼稚園
- ・ 読谷村漁業協同組合
- ・ 大分農業文化公園
- ・ 株式会社ウオロク
- ・ 神奈川・食育をすすめる会
- ・ 東松島市食育推進協議会
- ・ 平戸市食育推進会議



【食育活動表彰講評】

食育活動表彰 審査委員長 中嶋 康博

<概要>

審査委員長の中嶋でございます。第3回食育活動表彰では個人・団体の皆さまから189件の応募をいただきました。それをもとに7件の農林水産大臣賞、14件の消費・安全局長賞を選定させていただきました。改めて受賞された皆さま、心よりお喜び申し上げます。

審査委員会では審査基準に基づき、先進性、継続性、有効性、波及性、そして、実践性の、5つの観点から評価を行いました。また、第3次食育推進基本計画で掲げられた5つの重点課題、若い世代を対象にする、多様な暮らしへの対応をする、健康寿命の延伸、食の循環や環境への意識、そして、食文化の継承といった課題に取り組んでいるかを詳しく見させていただきました。これらの活動においては、それぞれの皆さまの本来業務、例えば教育機関としての授業プログラム、管理栄養士等の養成機関としての通常作業などを超えたものかを確認させていただきながら、応募の活動内容が食育の観点から特別に評価できるものかどうか、審査委員で熟慮を重ねて審査を行った次第でございます。本年は地域住民や学生の皆さんが自らの食と健康、そして環境を共に考え、共に行動する、堅実かつ誠実な取組が数多くございました。また、食を提供する担い手の方々との交流や、現地での体験を通じて、食べ物の大切さ、命の尊さに気づいていく活動、地元の食を発見し、その宝を皆さまと共有する活動、食を通じて人々が集い、お互いのつながりを実感する活動など、現代が直面する課題に向き合って、それを解決する魅力的で挑戦的な活動を表彰することができたと思っております。それらはいずれも第3次食育推進基本計画で挙げた5つの重点課題で取り組んでおり、食育活動の着実な進展に貢献するものとして高く評価された次第です。

今回、残念ながら選外となられた個人、団体、企業等におかれましても、今後の発展が期待できる興味深い取組や特徴的な取組が数多くございました。表彰された取組を参考にいただきながら、今後もさらなる食育活動を推進し、来年度もご応募いただきますことを切に希望いたします。

最後にこの表彰が国民や社会への食育の推進の大きな契機になることを祈念いたしまして、私からの講評とさせていただきます。受賞者の皆さま、本日は本当におめでとうございます。



第3回食育活動表彰受賞事例発表会 ～食がつなぐ人と未来～

日時：令和元年6月29日（土）13：00～14：30

【登壇者】

コーディネーター：秋田 昌子氏

（すみだ食育goodネット 顧問 / 第3回食育活動表彰 審査委員）

コメンテーター：中嶋 康博氏

（東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授 / 第3回食育活動表彰 審査委員長）

奥秋 曜子氏

（料理家・洋菓子研究家）

発表者

：山川 喜市氏（有限会社蔵王マウンテンファーム 代表取締役）

大久保 健氏（山梨県立ひばりが丘高等学校 うどん部 顧問教諭）

近藤 博子氏（気まぐれ八百屋だんだん 店主）

深澤 早苗氏（山梨学院短期大学 食物栄養科 教授）

実施概要

司会：皆さまこんにちは。農林水産省主催の特別企画 第3回食育活動表彰 受賞事例発表会～食がつなぐ人と未来～を始めさせていただきます。まず、コーディネーターをご紹介します。第3回食育活動表彰審査委員で、すみだ食育goodネット顧問の秋田昌子様です。続いて、コメンテーターのお二方をご紹介します。まず、第3回食育活動表彰審査委員長で東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授の中嶋康博様です。そして、山梨県甲府市在住の料理家で洋菓子研究家の奥秋曜子様です。よろしくお願いいたします。

それではここからの進行は秋田様にお願いいたします。秋田様、どうぞよろしくお願いいたします。

秋田氏：皆さまこんにちは。ご紹介いただきました秋田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。さて、食育の柱は平成17年にできた食育基本法です。この食育基本法に基づいて、食育を推進するために、国は食育推進基本計画を5年ごとに作成しています。そして、食育活動表彰は第3次食育推進基本計画に基づき、優れた取組を表彰し、さらに食育を広めていくことを目的に実施しているものです。本日は4つの団体の方々から取組事例をご発表いただき、後半で意見交換を予定しております。それでは事例発表に入りたいと思います。最初に、教育関係者・事業者部門 農林漁業者等の部 農林水産大臣賞を受賞されました 有限会社蔵王マウンテンファーム代表取締役の山川喜市さん、お願いいたします。

山川氏：皆さんこんにちは。山川牧場は山形県の上山市、蔵王の山の中にあります。農林水産業、酪農の仕事は命をつくって命を育て、次の命を育み、その命を売って社会へつなぐ仕事です。30年ほど前に問題を抱えて悩む子供たちと出会いました。時間の経過とともに問題の原因は根深い、世代を超えたところにある、と感じました。今日は酪農体験学習が食育でかわったことで、気づいたこと感じたこと、わかったことなどの子供たちの事例をお話します。

命と食はどこにでもつながる。どこにでもどんな話でも入るキーワードです。特に、大切な収穫についてお話します。植物の収穫は切り取る、掘り取る、もぎ取る、刈り取る、です。動物の収穫は屠畜、殺して肉などを得ることです。収穫されたものは食や材料として私たちの喜びになり、命となって消えていきます。収穫された方としては、命を絶たれるという悲しい物語があります。幸福と不幸の両面を考え、受け止めなければならないと思います。食の裏側にある、悲しみ、痛み、寂しさ、残酷さなどを気づき知ることが自分自身を顧みること、責任や役割を感じることで、人間としての生命の尊重、つながり、生き方の自覚、そのほか教育効果として現れると考えます。また、物の原点を知る、考えることで基本に立ち返り、新たな出会いを求める力と意欲が湧くものと思います。健康の源は食、食の源は命、命の源は自然、自然の源は土、土の源はうんこです。

牧場では毎日牛乳を搾り出荷しています。牧場にはメスしかいません。オスは子供も産まないし、乳も出ないので、2年半育て食肉公社に行きます。食肉公社は生き物の命を絶ち、食肉をつくる場所です。山形は毎日、牛は60頭、豚は40頭処理しています。毎日毎日血の海の中で、牛や豚の悲鳴の中で命を懸けて働いている人たちが大勢います。このような事を皆さん知っていましたか？屠畜される動物たちもかわいそうですが、このような収穫の物語が全てにあることを知っていましたか？命が変わった食べ物に、硬い、嫌い、まずい、などと文句を言っただけではいませんか？そして、命が変わった食べ物を無駄にして、食べ散らかし、わがままを言って、ゴミにしているいませんか？こうして収穫してできた食べ物を私たちはこれからも食べて生きるんです。食と命のつながりが1から100まであるのなら全部知ることが大切です。

次、お願いします。今から約40年前。全国一斉に鳥と豚がいじめを始めました。狭い囲いの中により多くの動物たちを飼い、経済性を重視し利益追求を始めたときから家畜たちはいじめを始めました。このような事があったことを皆さんご存知でしたか？そして、この鳥と豚のいじめはすぐ0に解決しました。こんなこともご存知でしたでしょうか？鳥は弱い者のお尻をつつき死ぬまでいじめます。排除しても排除しても次のターゲットを見つけます。豚も同じで、ケンカが始まり血だらけになって死ぬまでいじめました。このいじめを全国一斉に、私たち業界は0にしています。0に解決したんです。子供たちにこの話をし、答えを教え、方法を教えています。そして、人間のいじめはどうしたら解決できるのかをみんなで探っています。ヒントとして、いじめをしたのは鳥、豚、人間。いじめをしない者は、牛、野生、ペットでした。いじめを解決した方法のヒントとして、誰でも簡単にできる方法です。お金もかけません。場所も取らない、時間も取らない、とても簡単な方法でした。なぜ人間のいじめは0にならないのでしょうか。

次、お願いします。平成25年の体験学習の後に、お礼の手紙とこの詩が届きました。私の目指している答えが表現されています。問題を起こしている子供は心が作られていなかったような気がします。そして、決断や判断なども誤っているのではないのでしょうか。皆さんは心をどこで感じて、どこに位置していると考えますか？そして心の定義は等と、考えなければいけないと思います。

次、お願いします。命は心。心の深い意味を子供たちに伝え、理解してもらう必要があります。食べ物を食べれば命が育ち、エネルギーが作られます。食べ物のつながりや食になるまでの経緯を知り、その物語と食べ物を一緒に食べると命と心が同時に作られます。最後のページです。喜怒哀楽などのエネルギーを生きる力に変換する。私のおすすめの変換方法は、ナニクソ、ナニクソ、ナニクソ。「物事の進行はナニクソ」です。ご清聴ありがとうございました。

秋田氏：山川さんありがとうございました。まさに、食育の原点となる命。その命を真正面に受け止めて、そのことをどう考え、子供たちとどうやって育んでいくかといった取組をお話していただいたと思います。それでは、今の山川さんのご発表を聞いていただいて、中嶋先生、ご意見、ご感想などをお願いしたいと思います。



中嶋氏：発表ありがとうございます。私たち、食べるという行為は、命をいただく、言葉としてはわかっていますが、食の現場に携わる人が真正面からどのように向き合っているのか、お話をさせていただくことで、本当の意味を知り、私たちの腑に落ちるんだとわかりました。ただここまで取り組んでくるまでにはかなりご苦労されたんじゃないかと思います。ありがとうございました。

秋田氏：中嶋先生、ありがとうございました。次に、ボランティア部門 食育推進ボランティアの部 農林水産大臣賞を受賞されました 山梨県立ひばりが丘高等学校 うどん部 顧問教諭 大久保健さん、お願いいたします。

大久保氏：ひばりが丘高校うどん部の顧問をしています大久保と申します。私たちひばりが丘高校うどん部が活動の目標としていますのは、讃岐うどんを超えることです。吉田のうどんは、讃岐うどんと比較すると知名度もなく、かなりマイナーなうどんだと思います。そんなうどんを部員たちは誰よりも愛していますので、それを少しでも皆さんに知ってもらって、もう少し全国的にメジャーなところに持って行ければなということで、日々活動しています。吉田のうどんは皆さんもご存じだと思いますが、吉田のうどん発祥の経緯というのは、富士吉田地域ではもともと機織りが盛んでした。その機織りをしていた女性のために、男性が食事を振舞っていた。しかも機織りを途中で止めるのは作業的に効率が悪いということで、腹持ちの良い硬い麺を作ったと言われています。その当時は、麺もただ単に味噌汁の中に入れてだけの簡素なものだったそうで、山梨県人にとっては普通かもしれませんが、うどんに味噌が入っているというのは他県の方はすごく驚きます。そんなうどんを少しでも全国的にメジャーなところに持って行ければと一生懸命活動している最中です。

うどん部の活動というのは、もともとは授業の一環でした。今のような活動をする前は、ただ単に情報発信を主な活動としておりまして、フリーペーパーを作成したり、SNSでの情報を発信したり、ホームページの作成がメインでした。予算につきましても学校からお金を出しているという訳ではなく、地域の企業やいろいろなところにご協力をお願いしています。あと、今も子供たちは外でうどん屋を出しており、そういうところで得た収益をもとに、フリーペーパーを発行するような費用に充てるような形をとっています。その後商品開発とか、小中学生へのうどん作り体験や、インバウンド観光を狙った外国人観光客を対象としたうどん作り体験などを進めていくようになりました。その後、縁がありまして我々の活動にすごくファンになってくれた日刊スポーツの記者さんのご紹介でアキバ系アイドルのでんぱ組というアイドルユニットと一緒にうどん作りをしようという話になって、ライブイベントに出展し、3年前にはももいろクローバーZのライブイベントにも出展するようなこともありました。そんなうどん部ですけど、ここ数年、うどん店の後継者がいないということがアンケート調査の中でわかりました。約9割で後継者がいなくて、20年後にはほとんどのうどん店が閉店すると答えています。これだけ富士吉田市民だけでなく、山梨県全体に根付き始めている吉田のうどんが20年後にはもしかすると無くなるかもしれないというのは、私たちにとって危機的な状況だと思いました。そこで、ここ2、3年の活動は、食文化継承の方に重きを置いていこうと方向性を切り替えていきました。



大久保氏：食文化の継承という大きな問題を高校生が簡単に解決できるわけではありません。そこでいろいろ考えた結果、自分たちがまず後継者になればいいのではないかと考え、うどん店を開業しよう、と思いました。ただし、学生ですのでうどん店をやるといっても平日学校を休んで店をやるといふ訳にもいきませんので、週末限定でお店ができないかなと考えました。当然ですが、高校生がお店を開業するということはとんでもなく大変なことです。そんな状況の中、今までいろいろなネットワークの中でつながりが出てきていましたので、山梨県スーパーのセルバさんや商品開発を一緒にしています伊藤忠食品さん、テンヨ武田さんのご協力をいただきまして、昨年の4月29日に、何とかうどん店を開業することができたわけです。当然ですが、開業後すべてがスムーズにいったわけではありません。一番ひどかった時は、1日に30人ぐらいしかお客さんが来ない時もあった、もうやめようかと思った時もありました。ですが、今では大体一日70人くらい、多い時は100人近くお客さんが来るようになっています。売り上げも累計で140万円くらいまで一応来ているので、何とか形にはなっているのかなと思っています。ただ、そうは言っても、まだうどん店の後継者育成については難しいところがありますので、私たちは子供店長制度というものを始めることにしました。うどん店に就業体験をしてもらい、吉田のうどんに触れてもらって働くことを覚えながら、少しでも将来吉田のうどんに関わるような人材が育成できればと取り組んでいます。今、参加者もすごく多くて、8月末まで参加者がいっぱいのような状況で、こういう活動を継続しながら少しでもうまいけばいいかなと思っています。最後に、地域に貢献できるような活動を今後も継続して頑張りたいと思います。ありがとうございました。

秋田氏：ありがとうございました。食文化を伝承し、広く発信する担い手をつくり、そして地域の食文化に貢献するという取組をされていました。奥秋先生、今のうどん部の活動について、ご意見、ご感想をお願いいたします。

奥秋氏：素晴らしい発表ありがとうございました。今から30年以上前になりますか、郡内の方にお嫁に行くときはうどんが打てなければ嫁としては失格だなどと言われたことがありました。私も郡内に嫁ぎましたので、結婚前にはうどんを打つ練習をしてから行きました。その時には、郡内の機織り、織った生地、甲斐絹を義理の両親がもってきてまして、これで布団を作ってきた、とそんな時代でありました。私ごとで恐縮ですが、このような食文化の中で昔はうどんというのが非常に地域に根差していたものだったんですね。ですが、30年経ちまして、コンビニエンスストアが増え、全国チェーンのうどん店などが増えてきましたので、だんだん後継者が少なくなってきた、という状況です。その中で、若い高校生がこういったことに取り組んでいるということがとても素晴らしいと思いました。そして、さらに、この高校生たちが地域とつながり、そして食文化について考えるようになったということが教育的な効果も非常に大きいと思います。うどん店も開業したということです。これからますますの発展に期待しています。ありがとうございました。

秋田氏：ありがとうございました。次に、教育関係者・事業者部門 教育等関係者の部 農林水産大臣賞を受賞されました 気まぐれ八百屋だんだん 店主の近藤博子さん、お願いいたします。



近藤氏：私は歯科衛生士という仕事をしていますが、その中で、健康を考えるにあたり、歯のことだけでは語れないなということを常々考えておりまして、歯と食と健康をつながたいなという考えの下で、日々を過ごしておりましたら、週末だけ野菜の配達をやらないかという話が舞い込んできたことから、八百屋を始めることになりました。今も歯科衛生士は続けていますが、八百屋を始めたことから近所のおばあちゃんや子育て中のお母さんの悩みが集まるようになり、地域の人達っていろんな悩みを抱えながら生きているんだなということを感じるようになりました。

その八百屋を始めたのが2008年で、2009年に自分の子供が勉強につまずいたことをきっかけにワンコイン寺子屋というのを始めまして、それが地域での子供たちとの関わりにつながっていきました。昔の写真を見返してよくわかるんですが、常に食べ物が登場しているんですね。子供たちと関わる中で、私は八百屋をしていますから、食べ物、おやつを担当して季節のものを出して子供たちと関わるということで、やはり人が集まるとそこに食は必ず存在するんだなというのを後になって私も感じていました。翌年の2010年に買い物に来た小学校の副校長先生のお話で今年入学してきた子供の中にお母さんが病気で、学校給食以外の食べ物をバナナ1本で過ごす子供がいるという話をされたことから、何て切ない話なんだろう、隣の人は何をしているのかな、気づいていないのかな、という思いから地域の私たちにできること、おばちゃんにできることは何かということで、食事をみんなで一緒にできたらいいなという思いからスタートしたのが、子供食堂になります。今は毎週木曜日に開催していて、子供は50人前後、小さい子供さんを抱えたお母さんたちを含めると、大体70から80食のご飯を用意して待っていますが、みんな忙しいんですね。電化がどんどん進んでいるのに、なぜ忙しくなるんだろう、皆さんそう思いませんか？子供も忙しい、大人も忙しい。子供たちはいっぱい話したいことがあるのに聞いてくれる大人がいないんですね。大人も聞いてほしいことがいっぱいあるのに聞いてもらえる場所がない。聞いてもらえる場所を現実の中で作りだしているのが子供食堂なのかなと思っています。スタッフはそう多くありませんが、来ている子供たちの思いを、大人たちの思いを受け止めて、聞いて、そしてそれに対応しているということで、メニューは当日決めてみんなを待っているという状況です。その活動の中に、郷土料理教室や、ベトナム料理教室を開催しながら、家庭では教育をしてもらえない子供たちを呼んで料理教室をやっています。中学生高校生になったら自分たちでもできるよね、というのをなんとなく遠回しに子供たちに伝えて、自分たちで生きていくという力をつけさせたいな、という思いからの活動です。中には、生産者になった子供たちもいまして、自分の作った農産物を持って店に現れる子供もいるようになりました。また、子供食堂の中で見つけたいろんな困難は自分たちだけで抱え込んでしまわないでいろんなプロの方たちにつなげたり、自分たちにできないことはできる団体にどんどんつなげたりと、人の輪が広がり子供に対して大人の目もたくさんできてくるようになりました。自分たちでできないことはつながるということを大人が見せることで、子供たちも、あ、できないって言うていいんだ、困ったときは誰かに相談していいんだということも学んでくれるのかと思っています。だんだんで育った子供たちは、小学生がもうすでに大学生になりまして、社会人になった子供たちもおります。その子らが、ボランティアとして今度は店に戻ってくれて、いろんな行事を自分たちで企画したり、子供食堂のお手伝いをしてくれたりするようになって、支援される側から支援をする、お手伝いをする側に成長してきています。食に関わる活動をしていまして、行政とも学校とも、児童館とも地域とも、少しずつつながりができています。八百屋を始めたことでいろんなつながりが広がって、いろんな勉強も私自身ができているということも、強く感じています。



近藤氏：私たちが目指す社会は何？と聞かれるといつも答えるのが、利権が真ん中にあるのではなく、人の笑顔、特に子供たちの笑顔がそこに存在するために周りの大人たちができることをひとつずつ持ち寄る、そういう地域づくり、社会づくりというのが大事なのではないかと思っています。その役割を担えるのは、食に関わることではないのかなと思っています。持続可能な社会づくりと今、言われていますが食育が大きな担い手になると、今までやってきて断トツに感じています。小さな食べ物もみんなで分けられる覚悟があるかどうかですよね。それが持続可能な社会づくりにつながっていくのではないかなと思っています。みんなの笑顔のために、みんなで力を合わせる地域づくり、それを食育でやっていくという考えを、みんなでやっていきたいなと、ずっとと思っています。ご清聴ありがとうございました。

秋田氏：ありがとうございました。子供食堂を通した共食の場が人と人のつながり、地域のつながりを育んでいくという取組をご発表いただきました。それでは、中嶋先生、ご意見、ご感想などお願いいたします。

中嶋氏：近藤さんありがとうございました。お話を聞いていてじんとしてしまいました。皆さんご存知でしょうか。子供食堂の取組は日本中に広がっているのですが、近藤さんの取組が一番初めくらいになります。だから、今の子供食堂の形をつくられたのは、近藤さんの頑張りなのではないかと思っています。NPO法人全国こども食堂支援センターむすびえというところが、子供食堂の数の最新調査結果を発表されましたが、2019年度の調査では3,718か所だそうです。実は1年前の2018年度は2,286か所ということで、1年間で1.6倍、急速に増えているわけです。今お話しいただいたような、さまざまな地域の課題があって、それをどう解決していったらいいのか皆さん真摯に取り組んでいます、そのひとつの解答が子供食堂という取組と理解しています。人間は必ず食べなければいけない。その時に、ただ一人で食べるのではなくみんなで食べて、困ったことがあった時にそのことを語り合えるような場、そういう場を近藤さんはお作りになった。それをひとつの家族だけではなく、大きな家族で、地域という大きな家族で、サポートをする仕組みを作られたというのは、本当に素晴らしいことだと思っています。いろんな世代の方がかかわっていらっしゃるわけです。今までの知恵も取り入れています。非常に感動したのは育っていった方々がボランティアで戻ってくるというつながりをつけていらっしゃる場所にも、この取組の持続可能性を感じました。どうぞお続けいただきまして、地域のために活動して頂けたらと思います。ありがとうございました。



秋田氏：ありがとうございました。教育関係者・事業者部門 教育等関係者の部 消費・安全局長賞を受賞されました 山梨学院短期大学 食物栄養科 教授 深澤早苗さん、お願いいたします。

深澤氏：山梨学院短期大学の深澤でございます。県、金融機関と連携した本短期大学の地域食育推進の取組について、事例発表させていただきます。山梨学院短期大学は昭和21年に創立いたしました。本学の食育は昭和20年代の農繁期の共同炊事に始まっております。これは教育理念、「実践を尊んで社会に貢献する人間を育成する」、に基づいており、今日まで地方短期大学としてその社会的役割を果たしてまいりました。

現在の食育推進の取組概要です。食育推進ボランティアを卒業必修科目、社会人基礎力育成講座の中の授業内容として位置づけ、食育実践力の育成、地域貢献の醸成を目標としています。食を専門とする食物栄養科と、育を専門とする保育科と一緒に食育推進ボランティアに取り組み、それぞれの専門性を融合させた授業の展開、食と育の視点を併せ持った人材の育成を目指しています。実施のシステムですが、ボランティアを希望する保育園や幼稚園は県に依頼し、県から本学にその情報が入る仕組みを作りました。金融機関や社会福祉協議会、また、栄養士会や企業などからは、本学に直接ボランティアの依頼が入ります。幼稚園や保育園、児童館で行った食育推進ボランティア件数は、平成28年度49園、平成29年度45園、平成30年度38園であり、今年度も既に39園から依頼がきています。朝ご飯の大切さや、好き嫌いをなくそう、また、歯を磨こうなどのテーマで食育活動を行って、子供たちの食に対する興味や関心、自然の恵みに対する感謝の気持ちを育んでいます。学生たちはエプロンシアター、ペープサート、パネルシアター、紙芝居などの教材を手作りして、食育活動に取り組んでいます。ボランティア実施後の施設の評価感想です。例えば、「普段接している保育者とは違った角度から食育を伝えるきっかけになった」、「保育所にとっても、学生にとっても、お互いが勉強するよい機会になる」などの感想をいただきました。また、「事前練習を重ね、スムーズに展開できるとなお良い」との意見もいただき、課題も見つかっています。児童養護施設に入所する児童のための料理教室も、年に2～3回実施しており、将来の自立に向けて料理を学ぶ機会の提供を行い、調理技術の習得に取り組んでいます。

2011年から山梨中央銀行様と連携してドリームケーキプロジェクトに取り組んでいます。小学生以下の子供に夢のケーキのデザインを募集し、入賞作品を実際に学生が製作してプレゼントするというものです。2018年の応募件数は約700件ありました。この事業では子供たちに食の楽しさや喜び、そして何より、夢を提供しています。

ボランティア活動後は実施先から講評をいただきますが、本学ではボランティア活動のまとめを行うためのボランティアパスポートを作成しています。学生が活動の内容や実施状況を記録するとともに、その活動の自己評価を行っています。振り返りを行うことで不足している力や改善点が明らかになり、次の活動に活かされていきます。



深澤氏：まとめとして、教育効果として次の4つが挙げられます。一つ目は、食育実践力の育成です。実践活動を通して、食育の企画力、指導力、また、表現力などが習得できました。社会からの助言は大きな教育力となり、学びを深める絶好の機会となっています。二つ目は、地域への貢献感の醸成です。社会貢献の大切さ、マナー、また、社会的態度の習得ができました。三つ目は、地域との連携です。山梨県と連携してボランティア依頼が本学に入るシステムを構築したことにより、今まで以上に地域との連携が図られました。その結果、持続的な地域貢献も可能となりました。四つ目は、食育実践や地域貢献への意欲の高い栄養士、製菓衛生師、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭を輩出できたことです。今後の課題と改善点です。一つ目は、食育推進ボランティアに継続的に取り組み、学生の食育実践力や地域貢献感を今後も育てていきたいと思っています。二つ目は、県や金融機関との連携強化です。実践活動の場を確保するためにも、一層の連携を図っていききたいと考えています。三つ目は、新たな実践活動の展開です。連携先の開拓、新しい企画の必要性などを感じています。そのためには、地域との一層のつながりを持ちたいと考えています。四つ目は、2学科が共同した活動の推進です。それぞれの専門性を融合させ、互いに学び合う活動の機会を増やしていきたいと思っています。ご清聴ありがとうございました。

秋田氏：ありがとうございました。地域とのつながりで学生を育成し、そして学生さんたちの実践力を用いて、さらに、地域に貢献し、最終的には学生も地域も育まれていくというシステムづくりを含めた取組であったと思います。それでは、奥秋先生からご意見、ご感想をお願いいたします。

奥秋氏：食に関わる仕事をしている人たちの間では、学院の卒業生は即戦力になるとよく言われます。今の先生の発表をうかがいまして、その理由がよくわかりました。2年間という短い時間で、本当にぎゅっと中身の濃い取組をしていらっしゃるということが、即戦力になる学生を育てているということだと実感できました。さらに、県や金融機関と連携して行っているというのが、地元ならではの大学の役割ということもよくわかりました。そして、山梨学院の食物栄養科と保育科という2つの科が連携して行っている取組、これも素晴らしいと思いました。今日は素晴らしい発表ありがとうございました。

秋田氏：ありがとうございました。今回発表していただいた4つの事例を大まかに整理してみました。

命を原点とした蔵王マウンテンファームの取組、それは生き物の命と向き合い、その尊さを知る体験に始まります。そして、その尊い命は地域で暮らす子供から高齢者という人と重なり、共食の場を用いた人と人とのつながりを育む、気まぐれ八百屋だんだんの取組に通じていきます。この縦軸が食育を通して、自然への畏敬、食べ物への感謝、そして、豊かな人間形成という、人を育む基本の柱になるのではないのでしょうか。そこに、山梨県立ひばりが丘高等学校うどん部の、特に食の専門家を育てる学校ではございませんが、地域の食文化の伝承、担い手づくりから地域貢献へと活発な取組をされています。また、その一方、山梨学院短期大学では食の専門職を養成する学校ですが、その専門領域にとどまることなく、地域資源を活用し、専門性を生かし、子供たちの夢を形にするという取組が行われています。この横軸に共通するのは、若い世代が食育にかかわる環境づくりを行い、その先に地域を育む活動が生まれているということです。

さて、ここから意見交換をしたいと思っています。この意見交換は、この縦軸、横軸のど真ん中にあたります。ここからのテーマは、「食がつなぐ人」に注目し、取組を通して人とのつながりをお聞きしたいと思います。まず、一つ目は、取組を通して、どのような人とつながりがあったか、そして、そのつながりを通して何が広がったか。二つ目は、人とのつながりが大切と言われますが、実は現場の中ではそのつながりをつくろうとしてもいろいろな壁にぶつかることがよくあります。壁にぶつかったこと、また、その時にどのようにしてこれを乗り越えたか、この二つについて、ご質問をさせていただきたいと思っています。それではまず、近藤さんにお伺いしたいと思います。

近藤氏：一つ目の取組を通して、つながった人というのは、まず、身近なお客様がいて子供たちがいて、スタッフ、ボランティアさんがいて、地域の方がいて、学校があって行政があって、というような、まず身近なところからつながっていったのかなと思っていて、身近な人からつながることで食は人と人とをつなぐ接着剤になっていって、どんどん広がって大家族のような温かさが広がってきて、そういうことをみんなが感じてくれるようになったと思っています。二つ目の、人が集まるということに関してですが、自分と同じ考えを持った人は絶対に他にはいないので、人が集まると必ずいろんな思いが集まります。まず、違いを認めること、違いを受け入れること、ということのを大事にして、乗り越えていったということがあります。代表者などのまとめる人たちの強い思いが外に出てしまうと、なかなか難しくなっていくので、できるだけそれは裏方に引っ込めて、みんなを受け入れるという、そういう気持ちでやってまいりました。

秋田氏：ありがとうございました。それでは続けて、山川さんお願いいたします。

山川氏：体験学習は幼児から高齢者まで対応しています。とても広い意味合いでのつながりができました。そして、最も大事なものは、命を取り扱う人々、職業と人、その人たちとも多く出会いました。また、学校や大学の先生ともとても多くつながりができました。そして、大きな広がりになったものは心ではないかと思います。そのつながりの中で、たくさんの教育諸問題が出てきました。子供たちが抱える悩み、そういうものがとても大きく立ちはだかって壁になっていました。その壁はとても厚くて、高くて、長い時間を要して、解決もある程度できました。その解決は食をきっかけにしたつながりが、子供たちの教育問題の解決に結びついていきました。いじめや、不登校や、自殺や、または暴力。食を通していろいろなものが解決できると思います。もっと大切なのは、一つのものにこだわらない、総合性、総合力だと思います。食育はとても基本的に大事なもので、共有すべきものだと思います。例えば、環境教育、職能教育、キャリア教育、いろいろありますけれども、それらの共通の基本は食育の中にある食、命、心、そして自然の循環、こういうものだと思います。できたら、こういう全国大会を活用して、食育をもうちょっと大きな総合性のある活動ができる輪を作っていただいて、みんなが共有できて、総合性を持てるような学びになっていけば、いろんな問題も解決できるし、もっと大切な活動まで見えてくるのではないかと思います。ぜひ、そうなってほしいと思っています。

秋田氏：ありがとうございました。奥秋先生、ご意見、ご感想をお願いいたします。

奥秋氏：まず、近藤さんがおっしゃっていた食は人と人との接着剤、この言葉に集約されていると思います。人間は食べなければ生きていけません、食べるということを通して、人と人が結びつく、これが本当に素晴らしいと思いました。それから山川さんがおっしゃっていたように、総合的にもっと食育というものをとらえることは非常に大切かと思います。自分たちだけが抱え込むのではなく、自分たちだけの得意なところだけを見ていくというような、盲目的なことではなくて、いろいろな人とかわる中で、総合的にもっと大きく、食育をとらえるということが非常に大切であり、今後の課題でもあり、そして食育の基本でもあるということを実感いたしました。

秋田氏：ありがとうございました。では、大久保さん、お願いいたします。



大久保氏：人とのつながりにつきましては、関係する市町村、当然うどん店もそうです。他に、地元の有志団体や地元企業、そして県外の大手企業などとのつながりが生まれました。先ほども言いましたが、アイドルグループのコンサートにも呼ばれるようになったり、そういうイベントに参加するようになったりと、いろんなつながりが生まれたかと思います。ただ、そのつながりに関して壁にぶつかったことはあるか、ということですが、今のところ、スムーズにいつていると思います。ただし、1点、最近の傾向としてあるのですが、いろいろなところで活動の幅が広がり、大手企業さんとか、いろんなところとつながりができればできるだけ、以前活動の主体であった地元の小さなグループなどからお声がけをいただけないようになりました。なんでそういうイベントにお誘いしてもらえないんですか？と聞いたら、あまりにもうどん部さんは大きくなりすぎているから、私たちが声をかけるのはヘンだという感じがするというのを言われてしまって、地域の貢献を目指しているのに、地域に逆にうまく認められないようなところも出てきているので、そういうことにならないように、あくまで地域を母体にまた頑張っていきたいなと思っています。

秋田氏：ありがとうございました。深澤さん、お願いいたします。

深澤氏：学生の活動はグループ活動が多いので、学生間のつながりは深まりました。また、対象となった子供たち、保護者、それから現場の栄養士の先生、保育士や幼稚園教諭の方々、福祉施設の先生方、地元の金融機関の方々と、取組の内容によりますが、さまざまな人とつながることができたと思っています。学生は、地域社会がどんなニーズを求めているのか、つながりを通して学ぶことができました。また、あたたかく受け入れてくれたことが、社会貢献への意識や意欲を、より高めることにつながったと思います。学生は、地域社会がどんなニーズを求めているのか、つながりを通して学ぶことができました。また、あたたかく受け入れてくれたことが、社会貢献への意識や意欲をより高めることにつながったと思います。

人とのつながりで壁にぶつかったことについては、学生はグループ活動ですから、意見が合わなくてたくさんの壁を体験しています。その場合まずみんなをよく話し合うこと、それから教員がアドバイスをすることで、知恵を得て乗り越えています。また、人とつながるためにはコミュニケーションの力が必要ですが、どうしても苦手な学生にとってはそれが壁になってしまいます。事前に何度も何度も練習をして、人の前に出る訓練をしておくとか、あるいは友だち同士で助け合う、このような方法で学生は壁を乗り越えていると思います。それから学生を指導する私たち教員側の問題として、保育科と食物栄養科で連携して活動を進めていきたいのですが、なかなか連携した実践活動を増やせない。これも、人とのつながりの壁だと思っています。諦めずにこれからも一生懸命取り組んでいこうと考えています。

秋田氏：ありがとうございました。中嶋先生、ご意見、ご感想などお願いいたします。

中嶋氏：それぞれの活動は地域に支えられていると思っておりまして、まさにこの山梨という場がそういう力を持っているのではないかと思います。どこでもこんな簡単にできることではない。もちろん、簡単ではないということはお話を聞いていてわかったのですが。共通して支える土台があるような気がいたしました。それは食を大事にする気持ちを持っているのではないかと思います。ただそうは言っても、うどんはだんだん廃れてきていました。それを何とか復活させなければという強い気持ちで活動する方が現れた。そこに、大事なこのうどんを復活させたいと皆さんが思って集っていったところが、理解するための何かキーポイントなのではないかと思っています。それから、食に携わる子供たちを支えたいという企業の方がいました。山梨学院短期大学さんの取組も、何か共通する部分があるように感じました。ここから得られた学びは非常に大きかったです。もう一つ、大久保さんが指摘された、活動が大きくなると地元から離れてしまうのではないかというのは、非常に大きな教訓ですね。やはり地域に根づいた食育活動というのはすごく大事だと思っていますので、しっかり心に留めたいと思いました。ありがとうございました。

秋田氏：ありがとうございました。食を通して多様な人がつながり、そのつながりを通してこれまでにない成果が生まれていることがわかります。次に、「食がつなぐ未来」に注目していきたいと思います。食がつなぐ未来とは、どんな未来なのでしょう。会場の皆さまもご一緒にお考えいただきながら、今、描いている未来の姿をお話しいただきたいと思います。それでは、深澤さんからお願いいたします。

深澤氏：子供たち一人一人が成長した時、健全な食を営み、そして、生きる力を持った姿を思い描いています。食に対する正しい知識を持ち、自分で考えて、自分で選んで食べる、こういう力を持った姿を想像しています。それから、本学の学生に対しては、専門職へ就職したのちに学んだ知識や技術を一層深めて、食育のリーダー的な役割を果たして社会に貢献している姿を思い描いています。さらに、私自身が思い描いているものは、共食です。共に食べる、食を真ん中にみんなが笑顔で楽しく食べる、そういう姿を求めています。

秋田氏：ありがとうございました。大久保さんいかがでしょうか。

大久保氏：私たちの活動は伝統食を未来につないでいくことですが、私が、食をつなぐ未来に関して今の子供たちに願うことは、学校という枠の中で活動をしているわけですが、それらから飛び出した社会の中で自分たちが食について考え、自分たちの意思の中で自分たちのやりたい取り組みたいことを見つける、地域に働きかけるようなことをやってもらえればいいかなと。それが私が描いている、食がつなぐ未来だと思います。

秋田氏：ありがとうございました。近藤さんお願いいたします。

近藤氏：自分だけたくさん食べられればいいという訳ではないということを学んでほしいと思いながら、日々言っております。一人が幸せでもみんなが幸せなわけではないわけですね。一人が幸せ、自分が何かたくさん持っていれば、自分は幸せになれるかというところではないので、みんなで分け合うことの大切さを気づいてほしいと思っていて、今の子供たちが、将来大人になった時に人と物を分け合うとか、喜び合う、悲しみも怒りも分かち合うということ学んでもらえるような社会づくりにきっと、食が導いてくれるのではないかと考えています。彼らが大人になった時に、利権ではなく、人の笑顔が中心になる社会づくりに向かって大きな舵を切れる気配は何となく感じていて、そういう社会づくりを彼らがおそらくやってくれるのではないかと未来を想像しています。

秋田氏：ありがとうございました。最後に山川さん、お願いいたします。

山川氏：未来といえば、子供だと思います。私はこう考えます。子供たちの健全育成はとても大事で、まず、課題が山積している子供たちの教育諸問題を解決すべきだと思います。心が重要なポイントを占めていると思います。長年活動してわかったことですが、食べ物を食べれば命が育ち、エネルギーが作られます。食べ物のつながりや食になるまでの経緯を知り、その物語を理解し、一緒に食べると、命と心が同時に作られ育っていきます。この辺を考えると、食というものの大事さは、子供たちの成長にはとても大切なもので、生き方とか、生きる方法とか、自分を顧みるとか、コミュニケーション、いろんな所へつながっていくと思います。

科学者は21世紀の最大の課題として、心の解明を挙げています。とても難しいと思います。でも長年やってわかったことは、結論として、身近な食を切り口にしてつながりを辿れば、子供の教育諸問題、いじめなども解決できると思います。大人はなかなか難しく考えていると思いますが、子供たち自身の力で解決できるようにしてあげたいと思って、いろいろ子供たちと関わりを持っています。そういう未来になればいいなと思っています。

秋田氏：ありがとうございました。受賞者の4人の方からのご発言、そして、コメンテーターの先生からのご発言をいただき、ここまで進めてまいりました。「食がつなぐ人」、そして、「食がつなぐ未来」、というこの2つの切り口で話を進めてまいりましたが、ここで会場からのご意見、ご質問をお受けしたいと思います。ご感想でも結構です。いかがでしょうか。

アオシマ様：ありがとうございました。東京から来ました食育活動をしていますアオシマと申します。今日は貴重なお話をありがとうございました。私も実際に食育の活動をしているのですが、まず食を通して人とつながって、そのつながった人と一緒に協働して取り組んでいて、地域のまちづくりをしていきたい、そこを目指してやっています。やはり、悩んだり、迷ったりってことの連続で、今日も悩みの真ただ中で来たのですが、今日、皆さんの話を聞かせていただいて、すごく勇気をいただいた気がします。おそらく皆さんも始まりのところはお一人お一人の想いですとか、夢ですとか、そういうところから始まったかと思いますが、そこに食を通してつながった人たちの想いとか夢とか、いろいろ重なって行って、何かが生まれたり、形になっていったのかなと感じました。すごく感動しました。私も地域に戻って頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

秋田氏：ありがとうございました。もしこの中に、大学の関係者の方とか、地域で活動されている方、また小学校、中学校、高校等で活動されている方がいらっしゃいましたら、ご意見をお伺いできればと思いますが…。

ミヤモト様：大学2年のミヤモトです。近藤さんに質問ですが、人とのつながりをつくるうえで、大切にしていることは何ですか？

近藤氏：想いを想うということですかね。相手を想う。田んぼに心ではなくて、想像するという字です。話をする相手、かかわる相手、身近なところでいうと家族です。その人に対する想いを持つことってというのがすごく大事なことかなと思うんですよね。話をする時にも、この人はこういう想いでお話をしてくださっているのかなとかですね。その話の裏にある気持ちを想像するとかですね。そういうことを心がけているつもりです。

ミヤモト様：ありがとうございました。

ヤマノベ様：東京から来ました外食チェーン店で食育活動をしていますヤマノベと申します。私は広報の仕事をしていて、店舗の方に実際には食育をさせていただいていますが、なかなか想いの共有といいますか、店舗だと営業が基本となっておりまして、そこにプラス食育のお仕事をお願いしなきゃいけないと、なかなかいいお返事をいただけないことも多くて、大久保先生にお伺いしたいのは、学生さんは学業が本分かと思います。そこで、部活動といいながら土日に店をやられたりとか、飲食のお店ってすごく大変だと思いますが、その学生さんたちをどう育てているかというのをぜひ、お伺いしたいと思います。



大久保氏：まず子供たちのやる気についてですが、すごく簡単で、例えば、商売は大変ですが、ビジネスをすれば数値的なデータがすぐとれるんです。例えば売り上げがすぐとれる。子供たちは日々お店の営業の中で、アンケートをお客さんにお願いしています。例えば、おいしかったとか、まずかったとか、あと、接客が悪かったとか、いろいろなものを集計していくわけですが、日々の集計の中で数値的なデータとして、例えば売り上げが上がった、これは何か自分たちの効果があったんだろうか、と。その中でよく見れば、接客が良かった、味が良かった、いろいろなものが日々のアンケートの中でわかります。逆に、接客が悪かったなどの悪い意見がいくつもあった場合には、それをアンケートの中から見つけることができます。そうすると子供たちは、良ければさらに一生懸命頑張ろうという気持ちが生まれますし、悪ければなんでこんなふうになったんだ、これじゃ直さなきゃ、売り上げが落ちてしまう、というようなかたちで、すごく子供たちはその値を実際に目の当たりにすることで、とても頑張るモチベーションにつながっています。また、そういう活動を続けていると、いろいろなところからお声がかかるようになります。子供たちにとってみれば、そういう自分たちを必要としてくれる団体やニーズがあるということがわかるということで、さらに頑張るきっかけが生まれています。大変なところも確かにあるんですけども、それが自分たちに返ってくるところが得られやすいので、子供たちは比較的苦ではないと聞いています。

秋田氏：ありがとうございました。新たな切り口として、「想い」、「数値」という言葉ができました。これは、一見、対極にあるもののように見えます。私たちは、戦後の復興から高度成長期を経て、右肩上がりの経済成長の中で、「想い」とか、「命を大切にすること」か、「人と人とのつながりを育む」ということを徐々に失っていったように思います。そういったことが3.11の東日本大震災を含めて、もう一度思い出そうという、そういう場もあったと思います。「食がつなぐ人と未来」というシンポジウムの中で、今、会場からのご質問を含めて、「想い」、そして、「数値や経済」、こういった視点が、新たに投げかけられたと思いました。それでは、ここまで全体を通して、中嶋先生と奥秋先生、それぞれのご意見、コメントなどをお願いしたいと思います。それでは、はじめに、中嶋先生、お願いいたします。

中嶋氏：本日はありがとうございました。全く異なった4人の方々の取組を見て聞いて、食そのものの持つ、総合性、山川様が指摘されましたが、奥行きや広さや深さということを感じました。食はそもそも自分事だと思うのです。自分が生きるために食べていくのですが、その狭い目線を超えて、例えば社会の問題を知ったり、環境問題を知ったりすることがある。それから、うどん部の活動のようにビジネスという現場を知ったり、様々なことに触れることがあったり、すごく魅力的な教育の場だと思います。ただ、これらの教育活動を進めていく上で、先ほどお話をされていた時に気づいたのは、認め合うことはすごく大事ということと、それから皆さん笑顔で取り組むことはすごく大事だとおっしゃったことです。きっとそういった活動のやり方がなければ、今言った問題を学ぶにしても効果は半分になってしまうのではないかと思います。

近藤さんの取組を聞いていて特に感じたのですが、最近取り上げられることが多い国連で提唱された持続可能な開発目標に、何か通じるものがあると思います。これは17の目標を定めて、開発していく上で大事な論点を整理したものです。ここに、持続可能性という概念を入れているのはとても大事なことです。もうひとつ大事なポイントは、誰一人取り残さないという概念が重視されていることです。そういう包摂性と言いましょか、みんなで高め合うということ、社会のことを考えていくというその枠組みを、近藤さんの取組でも示されましたし、実はそれぞれの取組の中に、そういったことが入っているのではないかと今日は学ばせていただきました。それから、深澤先生の取組ですごく印象深かったことは、こういった食育活動を如何に持続可能なものにするかということだと思います。先ほど受賞者の方とお話をする機会があって、ある方に、食育ボランティアの方々が高齢化していて、次の担い手がいらっしやなくなっているということをうかがいました。今、日本の社会全部そういう問題を抱えていると思うのですが、ここの山梨学院大学で取り組まれていることは、次の世代にちゃんとつなげていくチェーンのように、食育活動を担っていく方々をつくり得ているということについて、すごく大事なことだということに気づかされました。本日はどうもありがとうございました。

奥秋氏：今日は4つの団体の方の発表をうかがいました。いろいろな取組がありましたが、この4つの団体に共通するのは地元、地域での取組だと思います。やはり食べること、食というのは、中嶋先生がおっしゃったように、地元の土を使い、水を使って育てたものをその場で食べる、これがもしかしたら未来の食の姿ではないかなということを改めて感じました。そして地元で地域が力をつけていくことで、もしかしたらいま問題になっている食品ロスの問題とか、廃プラスチックの問題とか、地産地消とか、そういったことが解決できるヒントがそこにあるような気がしてきました。本当に今日は素晴らしい発表ありがとうございました。

秋田氏：中嶋先生、奥秋先生、どうもありがとうございました。食育は身近なものであり、その取組の方法は多種多様です。決して一人でできるものではありません。そして、人と人、地域と地域のつながりの中で育まれ、その積み重ねが宝物となっていきます。今回のテーマは「食がつなぐ人と未来」です。未来へつなぐのは人です。この会場にいらっしゃるみなさんのつなぐ力が、食育の輪を動かし、新たな何かを生み出し、未来を創っていくのだと思います。その推進の仕組みに欠かせないのが、民と民の協働、行政と民の協働、そして、行政内部の協働だと思います。取組のプロセスに多様な主体がかかわることによって、それが大きな推進力になっていくと思います。これまでの固定観念にとらわれず、柔軟な発想で臨むことが、その一歩になると思います。例えばみなさん、この物差し、まっすぐです。曲がりません。そして、この鉛筆もまっすぐです。曲がりません。でも、柔軟な発想を持って物差しを作ると、曲がる物差しができたり、曲がる鉛筆ができたりします。できないをできるに変えていく。それが食育活動の醍醐味ではないでしょうか。中嶋先生が先ほどお話された国連の17の項目、SDGsといいますが、この中に食育も盛り込まれていくと伺ったことがあります。この事例発表会、90分というお時間でしたが、何かしらの取組のヒントを持ち帰っていただければ幸いに存じます。今日は受賞された4人の方々、そして、コメンテーターの先生、会場にいらっしゃる皆さま、このシンポジウムをひとつの船としてご協力いただきました、本当にありがとうございました。この大会を機に、次の一歩を皆さんと一緒に進めていけたらと思います。どうもありがとうございました。

司会：これを持ちまして、第3回食育活動表彰受賞事例発表会～食がつなぐ人と未来～、終了させていただきます。最後までお付き合いいただきまして、ありがとうございました。



実施概要

日時：令和元年6月29日（土）15:00～16:00

プログラム：食品ロス削減トークショー

主催：山梨県

ゲスト：石田ひかり氏



※石田ひかり氏



※会場風景

イベント概要

食品ロスを福祉に役立てる活動として全国各地でフードバンク活動を実施している俳優の石田ひかりさんがトークショーを実施。日本における食品ロス削減への様々な取り組みや、フードバンク活動の紹介、日常から家庭で取り組める食品ロスを減らす工夫が伝えられた。

実施概要

日時：令和元年6月30日（日）10:15～11:30

プログラム：食育推進シンポジウム「食とスポーツアスリートトークショー」

主催：山梨県

ゲスト：今中大介氏 日向涼子氏



※今中大介氏



※日向涼子氏



※トークショー

イベント概要

スポーツの基本である体づくりをテーマに、元自転車ロードレース選手の今中大介氏を講師にトークショーを実施。前半では、今中氏による体力消費の激しい自転車競技における「食」を通じた体づくりや栄養管理についての講演を行い、後半部分ではゲストにアスリートフードマイスターなどの資格を取得して活動しているタレントの日向涼子氏を迎えて「食とスポーツ」についてのトークを展開した。

実施概要

日 時：令和元年6月30日（日）13：00～14：30

プログラム：講演「ギョギョッ山梨の美味しいお魚のお話し」

主 催：農林中央金庫・JAバンク山梨

講 師：さかなクン



※さかなクン



※会場風景



※「富士の介」応援団長に任命

イベント概要

さかなクンを講師に迎え、「魚を食べよう」「魚は健康に良い」といった食育に関する講演と会場参加型のお魚クイズを行った。講演では、山梨の淡水魚や山梨県産の新たなブランド魚「富士の介」も紹介された。

実施概要

日 時：令和元年6月30日（日）①12：00～12：45 ②15：00～15：45

プログラム：それいけ！アンパンマンショー

主 催：山梨県



※会場風景



※会場風景

実施概要

日 時：令和元年6月29日（土）30日（日）
 ①10：30～12：00 ②14：30～16：00（両日とも）
 プログラム：「やまなしの食」振る舞いタイム～山梨の郷土食を試食提供～
 主 催：山梨県
 協 力：山梨県食生活改善推進員連絡協議会

イベント概要

山梨県食生活改善推進員によって調理された山梨の郷土食が来場者に提供された。

【メニュー】

6月29日（土）	6月30日（日）
①小豆ほうとう	①みみ
②さんまめし	②甘納豆のお赤飯
③うすやき	③ビスケットの天ぷら
④おしゃかごり	④じゃがいもとひじきの煮物
⑤いも煮汁	⑤茂倉瓜の冷や汁



※会場風景

实施概要

日 時：令和元年6月29日（土）30日（日）

①10時～11時 ②11時～12時 ③13時～14時 ④14時～15時 ⑤15時～16時

プログラム：ABCクッキングスタジオによる県産食材を使った親子料理教室

主 催：農林中央金庫・JAバンク山梨

師：ABCクッキングスタジオ

イベント概要

メニュー：県産のフルーツを使った「フルーツもりもりトライフル」

参加：事前申し込みを行った親子80組



※会場風景



県産フルーツで作ろう！

ABCクッキングスタジオによる 県産食材を使った親子料理教室

2019.6.29(土)・6.30(日)

【時 間】 10:10～16:10 (午膳2コマ・午後3コマ)
※1コマ毎時45分

【場 所】 ①第14地区食育推進全国大会in山梨しずくメーン会場
山梨県の産業振興交流館
アイマツキ山梨 翠内館山梨ホームC
(山梨県甲府市中央2-192-6)
②山梨県立中央大学附属図書館
※1日1コマずつお申し込み

【対 象】 親子80組 (大人1人・子ども1人)
※小学生までのお子様限定

【メニュー】 フォーリングフルーツパイ
フルーツ(コンポート)・よどぎもち・りんご派・
フルーツケーキ・アイスクリーム・牛乳ゼリー
※お持ち帰りします

【作 用】 エコアクションポイント登録



先着
80組160名
参加無料

— お申し込み —

下記メールアドレス宛に必要事項をご記入の上お申し込みください！
 【Email】 agf0001009@jabank-yamanashi.or.jp
 【必要事項】 ①氏名 (お子様・保護者) ②学年 (お子様) ③連絡先電話番号
 ※住所 ④希望日および午前後または午後 (第3希望まで) ※
 ※年齢・年齢層別の参加費 (10才) ⑤お申し込みが可能な方です。ご了承ください。

【申込締切】 2019.6.7 (金)

【当選通知】 後日、お申し込みいただいたメール宛先へご連絡いたします。
 ※お申し込みがなかった参加費、振込通知、振込内容等は一切お知らせいたしません。
 ※ご希望のいない方々の宛先でJABANKのメールマガジンに毎月発行される内容が
 ござりますので、ご了承くださいませになります。

お問合せ先 3A/バンク山梨食農法人推進部 (食農食農センター)

Tel.055-223-3526

<http://www.jabank-yamanashi.or.jp/>

主催：山梨県食農推進部・山梨県食農振興会

共催：山梨県食農振興会・山梨県食農振興会



※告知チラシ

実施概要

日 時：令和元年6月29日（土）14：30～15：40

プログラム：講演・実演「味覚チェックしてみませんか？」

主 催：山梨学院大学



※会場風景



※会場風景

イベント概要

調理科学をベースにした体験やクイズによる参加型のワークショップ。基本の5味を当てるゲームやクイズなど、5種類のワークショップを実施した。

実施概要

日 時：令和元年6月30日（日）10：30～12：30

プログラム：講演・実演「「おいしい」の仕組みを学ぶ味覚教室」

主 催：（一社）甲府市歯科医師会



※会場風景



※会場風景

イベント概要

ゴマわかめの試食による味覚実験や、食品のイメージをオノマトペで表現する実習を通して、「おいしい」の仕組みを学ぶ味覚教室を開催した。

実施概要

日 時：令和元年6月30日（日）13：20～14：00
 プログラム：人形劇・講座「お野菜のパワーを伝えたい！お野菜と仲良くなろう！」
 主 催：にっこりベジ団



※会場風景



※会場風景

イベント概要

人形劇を中心に、歌、ダンス、手遊び、紙芝居なども盛り込み、野菜の魅力を伝えるパフォーマンスを行った。

実施概要

日 時：令和元年6月30日（日）14：30～15：15
 プログラム：講演「穀物を知ろう！大麦・雑穀のチカラ」
 主 催：（株）はくばく



※会場風景



※会場風景

イベント概要

セミナーとブレンド体験による、大麦や雑穀などの穀物についてのレクチャーを行った。

実施概要

日 時：令和元年6月29日（土）10：30～11：15
 プログラム：講演「タニタの健康セミナー」～タニタ食堂に学ぶ500kcalのまんぷく定食のコツ～
 主 催：（株）タニタヘルスリンク



※会場風景



※会場風景

イベント概要

タニタの社員食堂のヘルシーレシピのコツ、今日からできるヘルシーレシピの実践方法などが紹介された。

実施概要

日 時：令和元年6月29日（土）15：00～16：10
 プログラム：実演「五感と心で味わう体験型教室」
 主 催：学習院女子大学フードコンシャスネスプロジェクト



※会場風景



※会場風景

イベント概要

体験型教室で、“フードコンシャスネス（食を意識する）”教育の実演が行われた。

実施概要

日 時：令和元年6月29日（土）13：00～14：30

プログラム：「やまなしの食」を考えるシンポジウム

主 催：山梨県

講 師：服部栄養専門学校 校長 服部幸應氏

パネリスト：五味醤油株式会社 代表取締役社長 五味 仁氏

料理家 真藤舞衣子氏



※会場風景



※シンポジウムチラシ

イベント概要

料理評論家で服部栄養専門学校校長の服部幸應氏が基調講演「郷土食の再生からの新たな展開」を実施。その後のパネルディスカッションでは、服部氏に加え五味醤油株式会社 代表取締役社長の五味仁氏、料理家の真藤舞衣子氏をパネリストに迎え、『「やまなしの食」を学び、つなぎ、広めるために、今私たちができること』をテーマにディスカッションが行われた。



※会場風景

実施概要

日 時：令和元年6月30日（日）10：30～12：00

プログラム：講演「食育セミナー 健康寿命の延伸と食育の重要性

～日々の食生活から減塩を～」

主 催：農林水産省 関東農政局

講 師：キッコーマン総合病院 院長 久保田芳郎氏



※久保田芳郎氏



※関東農政局食育セミナーチラシ

イベント概要

関東農政局は、「食育月間」における全国規模の中核的な行事である食育推進全国大会において、第3次食育推進基本計画の重点計画のひとつであり、開催県・山梨の特徴である「健康寿命日本一」とも関わる「健康寿命の延伸と食育の重要性」をテーマに食育セミナーを開催した。

講師として迎えたキッコーマン総合病院院長の久保田芳郎氏からは、高血圧による健康への影響をはじめとした医学的な知見や減塩醤油を使ったキッコーマン病院の日本一おいしい病院食への挑戦を中心に、健康寿命を延伸するために日々の食生活において減塩などの食生活を改善していくことについて講演があった。



※会場風景



※会場風景

実施概要

日 時：令和元年6月30日（日）13:00～14:00
 プログラム：講演「スポーツ栄養 スポーツ少年団のための持久力を伸ばす食事」
 主 催：（公社）山梨県栄養士会
 講 師：公認スポーツ栄養士 大柴由紀氏



※会場風景



※会場風景

イベント概要

具体例を取り上げながら、公認スポーツ栄養士によるスポーツ少年団の食事について紹介を行った。

実施概要

日 時：令和元年6月30日（日）14:30～15:30
 プログラム：講演「高齢者の低栄養（やせ過ぎ）を防ごう」
 主 催：（公社）山梨県栄養士会



※会場風景



※会場風景

イベント概要

BMIの調べ方や、上手な栄養の摂り方について、栄養士会の田草川会長・平井副会長より講演が行われた。

実施概要

日 時：令和元年6月29日（土）30日（日）
 ①10:30～11:30 ②11:00～12:00
 プログラム：スイートコーン収穫体験ツアー
 主 催：甲府市



※受付



※バス乗車



※畑風景

第14回食育推進全国大会 inやまなし

当日受付
(定員になり次第締切)

スイートコーン 収穫体験ツアー

令和元年
6/29(土)
30(日)

アイメッセ山梨に集合!

1便 10:30出発
2便 11:00出発

バスで畑に向かいます(移動時間約10分)

定員
各回25人

体験料は 無料
※収穫したスイートコーンはお持ち帰りいただけます

収穫体験 約30分

※服装は、長袖が望ましいです
汚れてもよい靴でお越しください
※帽子の着用など、暑さ対策も忘れずに！
※小人数決行

◆お問合せ先◆
甲府市福祉保健部
健康支援センター健康増進課
連絡先：055-242-8301【直通】

こちらも
チェック！

受付・集合場所
アイメッセ山梨
[甲府市大津町2192-5]
第14回食育推進全国大会inやまなしメイン会場
組合インフォメーションにて受付

実施概要

日 時：令和元年6月29日（土）12：30～13：30

プログラム：アスリートトークショー

主 催：山梨県

講 師：萩原智子氏（元水泳選手、スポーツコメンテーター）



実施概要

日 時：令和元年6月30日（日）14：30～15：30

プログラム：ヴァンフォーレ甲府現役選手による食育トークショー「ご飯のチカラ」

主 催：山梨県

講 師：ヴァンフォーレ甲府 岡西宏祐選手



実施概要

日 時：令和元年6月29日（土）、30日（日）

プログラム：一皿で中央四県地鶏制覇！！

主 催：山梨県



一皿で中央四県地鶏制覇!!

山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、大分県、熊本県、鹿児島県、沖縄県

6/29(土)・6/30(日) 入場無料

一皿400円 全日限定 300名限定

いしがた地鶏 (山梨県)

甲州鶏どり (山梨県)

信州黄金シャモ (長野県)

静岡シャモ (静岡県)

第14回 食育推進全国大会 in やまなし

引継式

日時：令和元年6月30日（日） 14：35～14：50

【登壇者】

主 催 者：永山裕二氏（農林水産省大臣官房審議官）
弦間正仁氏（山梨県県民生活部長）
深澤 篤氏（甲府市福祉保健部長）
次期開催県：中根俊樹氏（愛知県農業水産局長）

実施概要

【主催者挨拶】

農林水産省大臣官房審議官 永山裕二

永山審議官：みなさんこんにちは。食育推進全国大会にご参加いただきまして、本当にありがとうございます。梅雨時で天気心配したんですけれども、この2日間にわたってあまり雨も降らずに多くの方にお越しいただいたことにこの場をお借りして感謝を申し上げます。2日間にわたって開催いたしましたこの大会も、まもなく、終了、閉会となります。今回も多くの関係者の方にブースを開いていただきまして、参加のみなさまにもいろんなことを見たり聞いたり、全国の活動について知識を得たりと、充実した2日間になったと思っております。食育は日々の小さなことの積み重ねが重要です。ぜひ今回、学んだいろんな知識、また小さな気づきというものをこれからの地域また家庭で生かしていただければ幸いに思います。来年は愛知県の常滑市で開催をいたします。今日も愛知県から来ていただいていますけれども、愛知県と一緒に食育の輪を今後も続けて行けるように取り組んでいただきたいと思います。今日はどうも本当にありがとうございました。



【主催者挨拶】

山梨県県民生活部長 弦間正仁

弦間部長：みなさんこんにちは。2日間にわたる食育の全国大会、このように多くの皆さんにお越しいただきまして、盛大に開催されましたこと、重ねて御礼を申し上げます。食がつながる人と未来、健康寿命日本一の富士の国やまなしから全国へということをテーマに開催いたしました。この開催にあたりましては、ご協賛をいただきました多くの企業や団体の方々のご理解があつてのことだと考えております。また主催と一緒に名を連ねていただきました農林水産省、甲府市の多くのスタッフのみなさま方にも重ねて感謝を申し上げます。富士の国やまなしでございます。2013年6月、6年前に富士山は世界文化遺産に登録をされました。山梨県は富士山や八ヶ岳や南アルプス、多くの自然がございまして、その自然が育む水や日本一のフルーツ、あるいは温泉、食文化、史跡等、多くの観光資源がございます。それをみなさんにご堪能いただけたと考えております。また、これを機会に、全国から多くの方にお越しいただきたいと考えております。

弦間部長：次の開催は愛知県になりますけれども、愛知県と山梨県は2027年、8年後にリニア中央新幹線が東京―名古屋間で開業いたします。愛知県とは、より一層深い交流がさらに続いていきます。愛知県におかれましても、食育の継続した推進になお一層ご尽力をいただければと考えてございます。本日はこの大会に出席されました方、関わられたすべての方のますますのご繁栄とご発展、またご活躍を祈念申し上げまして、あいさつとさせていただきます。2日間誠にありがとうございました。



【主催者挨拶】

甲府市福祉保健部長 深澤 篤

深澤部長：大会期間の2日間、多くの方にお越しいただき、大成功に終わった大会であったと思います。これもひとえに、農林水産省、山梨県の皆様をはじめ、この大会に携わられた多くの皆様方のご尽力の賜物であると感謝を申し上げます。

この大会を通じ、食育の意義をご理解いただける機会となったのではないのでしょうか。本市は、今年の4月に中核市となり、新たに健康支援センターを開設し、「健康」を政策の大きなキーワードに掲げております。食育の取組についても、さらに加速していこうと考えているところです。

来年の大会は、愛知県で開催されます。愛知県の食育として、まず、思い浮かべるものは、豊富な郷土料理や多種多様な名物料理でございます。このような強みをぜひ活かしていただき、本大会に引続き、食育の活動を全国に拡げていただきたいと思います。

結びとなりますが、本大会に関わられた全ての方々のご健勝とご多幸、そして、この大会を契機に、さらに食育の理解が深まり、何よりも来年の愛知県大会が成功に終わることを心よりご祈念申し上げるとともに、本市は、今年開府500年という歴史的な節目を迎えております。今後も、年間を通じて様々なイベントを展開しておりますので、甲府市、そして山梨県にお越しいただき、季節ごとにご堪能いただければというお願いを申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。この2日間、本当にありがとうございました。



【主催者挨拶】

愛知県農業水産局長 中根俊樹

中根局長：みなさんこんにちは。農業水産局長の中根でございます。まずは、この第14回の食育推進全国大会が大成功、本当におめでとうございします。私たちは、来年手をあげてしまいましたけれど、こんな大成功に私たちが導けるか、今非常に怖く思っております。アンパンマンショー、このあと、ありますよね。アンパンマンショーって楽しみ？ そうだね。アンパンマンショー来年も愛知県でやろうかな。さかなクンもすごかったですよね。さかなクン...さかなクン、来年やろうかな。とにかくですね、面白い催し物をたくさん考えて、今回ここにおられる素晴らしいブースの皆さん、それから実行委員会の皆さま、全部を引き連れて愛知の方でも大成功に導きたいと思っておりますので、今日は健康寿命日本一の富士の国やまなしからバトンを引き継ぎにまいりました。来年の愛知県大会は、元気な“あいち”から未来に羽ばたけ『いきいき食育』をテーマに、魅力いっぱいの愛知県の食育、それから未来につながる愛知の食育をPRしていきたいと思っておりますので、皆さまぜひお越しください。中部国際空港の近くですので、空港にはたくさんの飛行機が、実際に座って見られるというそういういろいろな観光が楽しめますし、名古屋に行けばなごやめしも楽しめますし、多分非常に山梨から簡単にこれますので、ぜひ愛知、魅力いっぱいの愛知にぜひお越しください。よろしくお願いします。本日は本当に誠におめでとうございします。



1	(公社) 全国学校栄養士協議会	子供たちへの食育の更なる充実をめざして
2	(公財) 学校給食研究改善協会	子供たちへの食育の更なる充実をめざして



3	高校給食を考える会	公立高校への学校給食導入の普及活動及びアンケートの実施
---	-----------	-----------------------------



4	文部科学省	学ぶゾーン：学校における食育
---	-------	----------------



5

長野県 松本市

松本市の食育と食品ロス削減の取組み



6

認定NPO法人フードバンク山梨

もったいない食品大募集！食品ロスを福祉に活かすフードバンク。



7

全国学校給食協会

給食から食育を！



8

(株) 群羊社

食育のヒントがいっぱい！楽しく使える食育教材やアイデア料理本



9	(公財) 山梨県学校給食会	変わりゆく美味しい学校給食
10	全国学校給食会連合会	変わりゆく美味しい学校給食



11	あしたの山梨を創る生活運動協会	家庭備蓄のローリングストック（リサイクル保存と食品ロス削減）
----	-----------------	--------------------------------



12	(一社) 日本食育学会	産官学連携の学術団体です。主な取組についてご紹介します。
----	-------------	------------------------------



13 (一社) 日本食品添加物協会

もっと知ってほしい食品添加物のあれこれ



14 日本食品保健指導士会

健康食品を上手に利用しよう！



15 (公社) 全国調理師養成施設協会

調理師学校が発信する食育
食育を分かりやすく学ぼう！

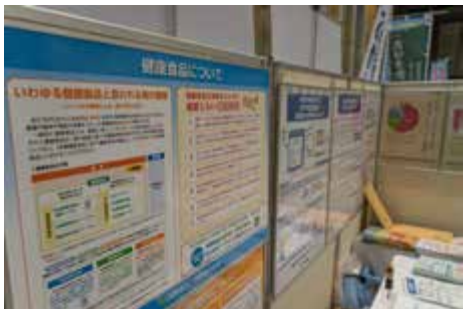
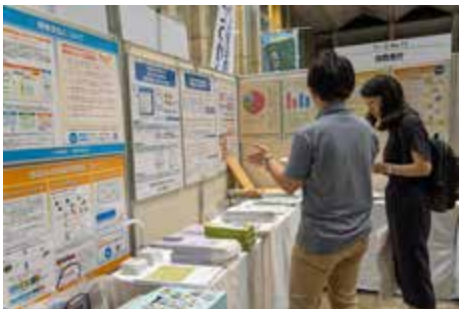
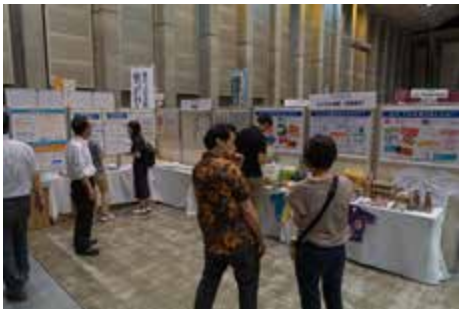


16 (一社) 日本農林規格協会
【JAS協会】

JASマークは安全・安心の認証マーク！



17	消費者庁	食品安全に関する情報提供、食品ロス問題の普及啓発、食品表示制度の普及
18	エシカル消費（消費者庁）	“消費”で世界を変えることができるって知ってますか？



19	(一社) 日本ソース工業会	“ウスターソース類”は魅力がいっぱい！
20	(一社) 全国トマト工業会	“トマト加工品”は魅力がいっぱい！



21

福井の大豆な会

姿を変える越前大豆！



22

内閣府食品安全委員会

食品の安全についてみんなで学ぼう



23

(公社) 調理技術技能センター
(公社) 日本全職業調理士協会

伝統的郷土料理と商業用・観光用にアレンジされた郷土料理



24

(公社) 調理技術技能センター
(一社) 全国日本調理技能士会連合会

山梨県の食材を使った日本料理の展示とゆば作りの実演



25

農林水産省 北海道農政事務所

受け継ぎたい北海道の食
～そのおいしさ、技、食材の魅力～



26

農林水産省 食文化・市場開拓課

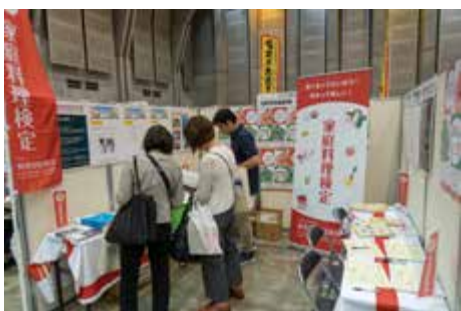
食育・和食文化を学ぼう



27

文部科学省後援事業 家庭料理検定

食事は未来の自分を作る！！～料検にチャレンジ～



28

学習院女子大学環境教育センター
フードコンシャスネスプロジェクト

味わい教育・五つの心で感じるとおいしくなる魔法



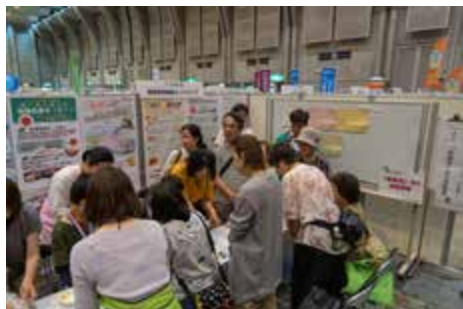
29	(一社) フードコンシャスネス研究所	五感とところで育み、食を“積極的”に意識する体験型食育
----	--------------------	-----------------------------



30	三信化工（株）	「うつわを通じた文化・環境・大切にすることへの気づき」ワークショップの開催
----	---------	---------------------------------------



31	農林水産省 関東農政局	望ましい食生活や食文化の継承の大切さを、見て、聞いて、体験して楽しみながら理解を深めよう！
32	関東食育推進ネットワーク	望ましい食生活や食文化の継承の大切さを、見て、聞いて、体験して楽しみながら理解を深めよう！



33	(一社) ChefooDo	食で笑顔を増やしたい！！
		
34	東京都 墨田区	夢をカタチに！ 手間かけてみんなで作るすみだの食育
35	すみだ食育goodネット	食育で みんながつくる 笑顔の環



36	希望食品（株）	災害への備え いざという時に役立つ食品
----	---------	---------------------



37

(学) 服部学園服部栄養専門学校
HATTORI 食育クラブ

みんなの食育力を試してみよう！ハットリ食育クイズ



38

NPO 日本食育インストラクター協会

みんなで考えよう！食育クイズ



39

NPO 法人元気な120才を創る会

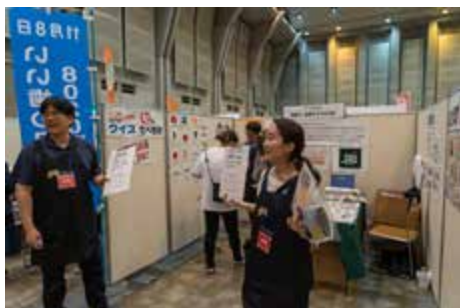
知的健康生活【錆びない！焦げない！身体づくり】



40

神奈川・食育をすすめる会

まいにちの「食」をおいしく、たのしく！



41

(公社) 日本歯科医師会
(一社) 山梨県歯科医師会

味わうためには噛むことが大事



42

生活協同組合パルシステム山梨

日本の食文化の源『出汁』！『ほんもの』の出汁を五感で体感しよう！



43,44

(一社) キッズキッチン協会

子どもの調理体験（ミニキッズキッチン）野菜のごまあえを作ろう



45

(株) はくばく

穀物を知ろう！大麦・雑穀のチカラ



46

生活協同組合ユーコープ

・はしが上手に使えるかな？
・野菜・果物の花って見たことあるかな？



47

清泉寮自然学校

みて、食べて感じよう！！食の楽しさ、大切さ



48

キューピー (株)

サラダとタマゴで健康長寿を応援します



49

(株) シャトレーゼ

シャトレーゼのこだわり「健康に配慮したお菓子づくり」



50

青森中央短期大学

青森の食を知ろう！～みんなで取り組む食育～



51

(一財) 日本educe食育総合研究所

箸に興味を持ち正しい持ち方とマナーを幼児期に体験してみよう。



52

大塚製薬 (株)

親子で楽しく学ぶ食育アプリ
“Sketch Cook”



53	(株) メイト	メイトは子どもたちの“楽しく食べる”を応援します
54	NPO法人キッズエクスプレス21	乳幼児を対象とした食育キャンペーン



55,56	全国餃子手づくり協会	親子でつくろう「カンタン!!」手づくり餃子教室
-------	------------	-------------------------



57

NPO法人日本成人病予防協会

バナナうんちで元気な子！
～生活リズムを整えよう～



58

山梨県立大学人間福祉学部人間形成学科

「創作 食育カルタ」であそんでみませんか？



59,60

日本保育協会山梨県支部
山梨県児童福祉施設栄養士会

皆で楽しもう！～生命を育む食育活動～①ゲーム
コーナー②ドキドキはてなクイズ



61	(株) オギノ	スーパーマーケットが取り組む食育活動～旬の食材を使ったメニューを食べて考えよう！食の大切さ～
----	---------	--



62	ニッポンハムグループ	みんなで一緒に食べる喜びを～食物アレルギー対応への取組紹介～
63	ニッポンハムグループ	みんなで一緒に食べる喜びを～食が繋ぐ持続可能な地域社会へ～



64	スタンプラリー抽選	スタンプラリー抽選ブース
----	-----------	--------------



65

甲府市上下水道局

利き水をして、お水の味の違いを体験してみよう。



66

甲府市環境部

しんぶんコンポストを使って生ごみで肥料を作ってみましょう。



67

甲府市福祉保健部
子ども未来部

まず知ろう！ 自分のからだ



68

甲府市教育委員会

甲府市小中学校給食の取組み～地産地消・食品ロス削減～



69	(一社) 甲府市歯科医師会	甲府市歯科医師会が取り組んでいる味覚教室
----	---------------	----------------------



70	(公社) 日本栄養士会	講話・栄養相談を実施。キウイ、ヨーグルト、野菜飲料プレゼント
71	(公社) 山梨県栄養士会	あなたにとっての望ましい食生活を管理栄養士・栄養士と考えましょう。



72	やまなしの水	ミネラルウォーター生産量日本一を誇るやまなしの水
----	--------	--------------------------



73

山梨県特用林産協会
山梨県林業振興課山梨県オリジナルきのこ
〔山梨夏っ子きのこ（クロアワピタケ）〕の紹介

74

JAグループ山梨

JAグループ山梨の食農教育の取り組み
～こども農業新聞～

75

キッコーマン（株）

おいしい記憶をつくりたい。



76

全国凍豆腐工業協同組合連合会

メタボや生活習慣病の気になる方に、こうや豆腐の新しい健康機能性を紹介します。



77

厚生労働省（スマート・ライフ・プロジェクト事務局）

食事を、おいしくバランスよく 適切な食生活で健康寿命をのばそう！



78

東京ガス山梨（株）

～人にやさしい～ 片手でクッキング



79

次期（第15回大会）開催地
愛知県

第15回食育推進全国大会は、
「愛知県」で開催！みんな来てね！



80

NPO法人日本食育協会

食育を通して、正しい食習慣をはぐくむ！



81

JAグループ和歌山

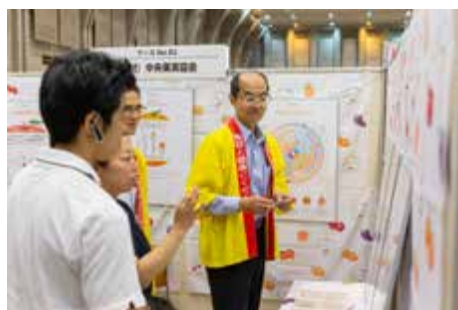
旬の特産物である青梅の加工講習会と新しょうがの機能性を紹介します！



82

(公財) 中央果実協会

健康のため、1人1日200グラムの果物を食べよう！



83

山梨ヤクルト（株）

食べ物の行方～腸の世界へようこそ



84

(国研) 医薬基盤・健康・栄養研究所
国立健康・栄養研究所

国立健康・栄養研究所と歩む栄養研究



85

山梨県食生活改善推進員連絡協議会

～私たちの健康は私達の手で～
自分の健康・家族の健康・そして地域の健康へ



86

健康円
【(株) 玄米酵素 特約店】

玄米酵素の普及を通じ、食改善で真の健康をお届けする。



87

総合食養推進協議会
メディカルライス協会

食で未病をなおし、健康長寿を達成



88

健やか山梨21推進会議

健康寿命日本一 ～知って健康！ “お口”から“おしり”～



89

ハーブ研究所ミルキーハウス

次世代の備蓄安定型住環境&五感健康教育の薦め



90

(一社) 日本乳業協会

もっと知って、飲もう、食べよう牛乳・乳製品！



91

(独) 農畜産業振興機構

農畜産物（畜産、野菜、砂糖、でん粉）の正しい知識を
広げよう！



92

そいかふえ

美味しい 安心 ノンカフェイン！ オーガニック大豆
コーヒー



93

峡東地域世界農業遺産推進協議会

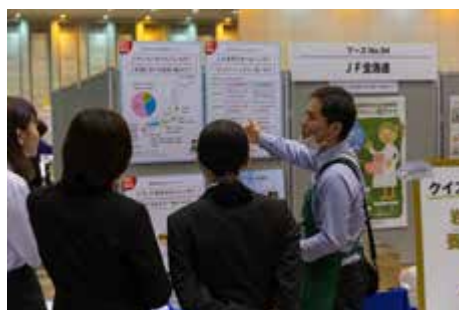
「峡東地域の果樹農業」を世界農業遺産に！！



94

J F 全漁連

プライドフィッシュの紹介&のりのテイスティング



95

(一社) 日本畜産副産物協会
後援：(公社) 日本食肉協議会

畜産副産物の知識普及



96

山梨県農政部畜産課

山梨の銘柄食肉
～甲州統一ブランド食肉とやまなしジビエ～



97

トキタ種苗（株）

おもしろ野菜大集合！！タネ屋さん一押しの新野菜(^-^)/



98

山梨県農政部販売・輸出支援室

県産農産物の魅力を紹介しています！



99

山梨県農政部農業技術課

安心・安全な農産物の生産につながるGAP認証制度



100

たべるじゃん// ほうとう推進
協議会

郷土料理ほうとうの食文化を後世につなぐ



101

カゴメ（株）

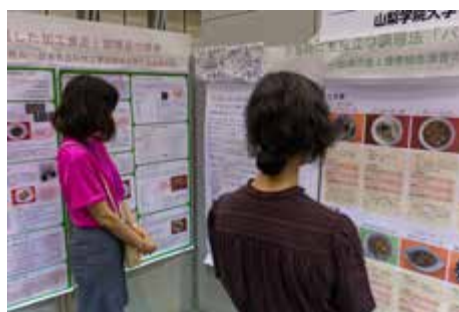
野菜で健康寿命日本一～やまなし発の野菜でおいしく・健康～



102

山梨学院大学

山梨学院大学健康栄養学部が社会に発信する食育実践活動



103

山梨学院短期大学

"地域密着型"山梨学院短期大学の食育「見て！食べて！学んで！」



104

(公社) 日本調理師連合会

地産地消の日本料理！山梨・大阪の会席料理



105

(株) 伊藤園

お茶のおいしい いれ方体験



106

NPO法人日本茶インストラクター協会

日本茶インストラクターが日本茶の美味しさと楽しさを伝えます。



107

峡南地域創生連携会議

峡南地域の食と文化



108

(一社) 和食文化国民会議

伝えよう、和食文化を。



109	日本醤油協会	しょうゆの味見体験と「しょうゆもの知り博士の出前授業」紹介
110	山梨県味噌醤油工業協同組合	しょうゆの味見体験と「しょうゆもの知り博士の出前授業」紹介



111	市川三郷町三珠地区活性化協議会	地域の宝（小学生・大塚にんじん・甘々娘）大きくなーれ！
-----	-----------------	-----------------------------



112	(一社) 全国削節工業協会	削りぶしで広がる美味しさの世界 ～削りぶしの種類と用途を学ぶ～
-----	---------------	------------------------------------



113

(一社) 日本鯉節協会

日本人に愛されてきた鯉節～その文化と栄養



114

日本昆布協会

昆布の旨味で健康に



115

山梨県立笛吹高等学校

農と食～笛高生徒の挑戦～



116

山梨県立ひばりが丘高等学校
うどん部

富士吉田市のソウルフード吉田のうどん見参



117

ちば食・良品

本まぐろのトロうま煮井千葉の醤油仕込み



118

甲州地どり市場

山梨県で改良した美味しい鶏肉を食べてください



119

(有) 山の湯宿はまやらわ

山梨の名水を利用したわらび餅



120

甲府市 (JA山梨みらい)

採れたて！新鮮！農産物
～えらい良いじゃん甲府ブランド～



121

甲府市
(風土記の丘農産物直売所)

採れたて！新鮮！農産物
～えらい良いじゃん甲府ブランド～



122

甲府市 (上九ふれあい農産物直売所)
こうふ開府500年

採れたて！新鮮！農産物
～えらい良いじゃん甲府ブランド～



123

オーガニックフェスタやまなし
実行委員会
やまなし有機農業連絡会議

うちの畑においでよ！



124

(株) テンヨ武田・武田食品(株)

地産・地消の食育活動の紹介、販売



125

(株) 桔梗屋

黒蜜ときな粉にこだわった「桔梗信玄餅と仲間達」



126

J A グループ山梨

山梨を食べよう！！「旬」な農産物・加工品を販売



127

リニア中央新幹線建設促進
山梨県期成同盟会

2027年の開業が迫るリニア中央新幹線のPR



128

(公社) やまなし観光推進機構

観光案内及び観光パンフレット配布



129

第4回「山の日」記念全国大会
Yamanashi (山梨県
森林環境総務課)

8/11 (日・祝) 開催の第4回「山の日」記念全国大会
を紹介!



130

山梨県パン協同組合

美味しいやまなしをはさんじゃお



131

(株) 東平商会

三島市・伊東市・長泉町・函南町の特産品を使用した
ご当地グルメ



132

金精軒製菓 (株)

山梨が誇る梨北米の美味しさを伝えたい



133

(有) ピーチ専科ヤマシタ
桃農家Café ラベスカ

今「桃」の時期!! 食べて!!収穫したばかりの「桃」と
作りたての「桃」ジェラートを



134

あわびの煮貝 (株) かいや

栄養価満点な、山梨県の伝統的名産品です。



135

清泉寮ジャージー牧場

有機JAS認定ジャージーミルク 乳製品試飲・販売コー
ナー



136

(株) 山梨中央銀行
アグリビジネススクール

アグリビジネススクールの受講生が、農産物・地域特産品
を販売します!



137

(株) シャトレーゼ

シャトレーゼのこだわり「健康に配慮したお菓子づくり」



138

(株) 澤田屋

日本の伝統行事や文化、歴史をお菓子を通して伝えていきます。



139

(有) 萩原製菓

韮崎の郷土菓子・県産食材を使用した商品PR



140

ハーブ研究所 ミルキーハウス

山梨の風土＆フード「長寿よこめ＆薬膳ほうとう」



141	東京オリンピック・パラリンピック山梨県実行委員会	オリパラへの県内取組、本県開催自転車ロードレースの情報発信。
-----	--------------------------	--------------------------------



都道府県食育ポスター展示





1	(一社) やまなし美味しい甲斐
2	飯野商店 (やきまる)
3	やっこ凧
4	司物流
5	なべ家
6	にらまん
7	レックマック
8	立よし
9	ワイン酒造組合 (サドヤ)
10	じままcafe

同時開催

フードデザインマーケット
ー僕らが未来に向けて発信できることー

主催：フードデザインマーケット実行委員会



山梨日日新聞 朝刊 令和元年6月4日掲載

29、30日甲府で食育全国大会

山梨の食魅力発信

「食育推進全国大会inやまなし」が29、30の両日、甲府市内の2会場で開かれる。「フードバンク山梨」の取り組みを応援している女優の石田ひかりさんやタレントの「さかなクン」による食に関する講演が行われるほか、山梨の郷土食を味わえるブースが設けられる。大会は全国各地で開かれ、

約2万人が参加する。山梨県で開かれる今大会は、農林水産省や県のほか、県内の大学やボランティア団体などで構成する実行委が主催する。県消費生活安全課によると、メイン会場のアイメッセ山梨では石田さんやさかなクンの講演のほか、服部栄登専門学校の服部幸恵校長らが「山梨の食」をテーマに見

を交わすシンポジウムがある。「茂倉瓜の冷やし「みみ」」「小豆ほうとう」など県内の郷土食を試食できるコーナーも用意する。サブ会場となるJR甲府駅北口よつちやばれ広場では、甲府市出身でシドニー五輪競泳女子代表の萩原智子さんのトークショーを企画。飲食ブースなども並ぶ。同課の担当者は「食育活動への理解を深めるとともに、県の食文化を発信し、PRしていきたい」と話している。

〈植田裕作〉

山梨日日新聞 朝刊 令和元年6月26日掲載

取材メモ

食育推進大会 郷土食PR



藤沢恵子
県食生活改善推進
員連絡協議会長

○山梨県食生活改善推進員連絡協議会の藤沢恵子会長は25日、甲府市内で開かれる「食育推進全国大会inやまなし」を話題に「県

内外の来場者をおもてなしの心で迎えたい」と意気込んだ。大会は29、30の両日に甲府・アイメッセ山梨をメイン会場に開かれ、著名人らの講演などを予定。約150の団体がブースを設ける。「食育への関心が高まるはず」と期待を込める。

協議会は「みみ」「小豆ほうとう」など郷土食を試食できるコーナーを担当。「核家族化が進み、食卓に上る機会が減っている。レシビも配布して広めたい」と強調。郷土食継承に向けた絶好の機会とあつて、舌も滑らかにアピール。

〈植田裕作〉

山梨日日新聞 朝刊 令和元年6月30日掲載

食品ロス削減、郷土食、健康… 食育 多彩な分野で考える

「食育推進全国大会inやまなし」(農林水産省、県、甲府市など主催)が29日、甲府市内で開催した。生活困窮世帯に食料支援する活動を応援している女優石田ひかりさんのトークショーや、山梨の食を考えるシンポジウムなどを開催。食品ロスの削減や郷土食の魅力、健康づくりなど、さまざまなテーマで「食」の今を考えた。

(桑原久美子、田中一成)

きょうまで甲府 全国大会に150団体

同大会の県内開催は初めてを出版している。30日まで、アイメッセ山梨とJR甲府駅北口よっちゃばれ広場の2会場で開催。県内外の約150団体が食育に関する展示や飲食ブースなどを出展している。

認定NPO法人「フードバンク山梨」が食料の寄付を呼び掛ける「きすなBOX」を見掛け、協力したのをきっかけに個人的に活動を応援してきたエピソードを披露。昨年12月には2人の娘を連れて食料の箱詰め作業に参加したことも触れ、「家では無駄にしちゃう物も、必要としている人の元へ届けば生かすことができる」と語った。

月には2人の娘を連れて食料の箱詰め作業に参加したことも触れ、「家では無駄にしちゃう物も、必要としている人の元へ届けば生かすことができる」と語った。

30日はタレントの「さかなクン」による特別講演ギョギョッ山梨の美味しいお魚のお話しなどが予定されている。



間伐材を使って箸を作る参加者
＝JR甲府駅北口よっちゃばれ広場

山梨日日新聞 朝刊 令和元年7月4日掲載

食育大会に2万1500人 県発表

県は3日、「食育推進全国

大会inやまなし」（農林水産省、県、甲府市など主催）

の来場者が2万1500人だったと発表した。県担当者は「目標の2万人を超え、食育への理解を深める機会になっ

た」と話している。

大会は6月29、30の両日、

甲府・アイメッセ山梨とJR甲府駅北口よつちやばれ広場を会場に開催された。県消費生活安全課によると、両会場で初日は計9千人、2日

目は1万2500人が訪れた。

大会の県内開催は初めてで、県内外の約150団体が食育に関する展示や飲食ブースなどを出展。女優石田ひかりさんのトークショーや、山梨の食を考えるシンポジウムなどがあった。

〈植田裕作〉

山梨日日新聞 朝刊 令和元年7月1日掲載



「富士の介応援団長」に任命されたさかなクン(右)
と長崎幸太郎知事 二甲府・アイメッセ山梨

県ブランド魚「富士の介」今秋出荷 さかなクン 応援団長に

「食育推進全国大会inやまなし」(農林水産省、県、甲府市など主催)の最終日が30日、甲府・アイメッセ山梨とJR甲府駅北口よつちやばれ広場で開かれた。講演したタレントの「さかなクン」が県のブランド魚「富士の介」の応援団長に就任した。

県花き農水産課によると、富士の介はキングサーモンとニジマスを掛け合わせた魚で、鮮やかなオレンジ色の身が特徴。今秋の出荷を予定しているという。

講演に先立ち、長崎幸太郎知事が「富士の介を日本全国、世界にPRしてほしい」と述べ、委嘱状を手渡した。さかなクンは「上品できめ細かい油がのった魚。精いっぱい応援したい」と応じた。

さかなクンは「ギョギョッ山梨の美味しいお魚のお話し」と題し特別講演。すらすらと魚の絵を描きながら魚に関するクイズを出題し、環境保全の大切さを伝えた。

〈山本成美〉

山梨日日新聞 朝刊 令和元年7月19日掲載



「やまなしの食」を考えるシンポジウム。右から真藤舞衣子さん、五味仁さん、服部幸應さん、コーディネーターの前村里菜さん
＝甲府・アイメッセ山梨

食の今を考える

「食育全国大会やまなし」から

上 郷土料理の在り方

山梨県内で初めて開催された「食育推進全国大会inやまなし」(農林水産省、県、甲府市など主催)。郷土食の魅力や健康づくりなど、さまざまなテーマで「食」の今を考えるイベント

トが、2日間にわたり繰り広げられた。多彩なイベントの中から、山梨に関係する話題、高齢化社会に関心の高いテーマについて2回に分けて紹介する。

「やまなしの食」を考える」とをテーマに意見を交わしシンポジウムには、服部幸應さん、

専門学校の校長の服部幸應さん、県は、次世代に引き継ぐべし、料理家真藤舞衣子さん、き郷土食などを「やまなしの甲府・五味醤油社長の五味仁さん、このうち、ほうとう、せいで仁さんの3人がパネリストとして登壇。「やまなしの食」のたまじりな代表的な料理を学び、つなぎ、広めるために「特選やまなしの食」として、今わたしたちができることをしている。

オンリーワンの味 創出

服部さんは、こうした郷土食を見直し、発展させることを提案。山梨名物として知られるカボチャのほうとうについては、「夏収穫したカボチャを保管し、冬に熱々に煮込んで食べていたもの」とし、「ペースはそのままだに、山沿いではシカ肉など、各地域ならではの食材や味付けを取り入れてはどうか」とアドバイスを。冷やしたほうとうの麺をつゆにつけて食べる「おざら」にも触れ、「食べ方や種の本家で工夫ができる。伝統的なものは残しながら、見直したり新しい食べ方を開発したりして、試すと面白い」と話した。

地域性を加味

さらに服部さんは、スペインではここ数十年で①今ある料理を見直す②過去の料理と歴史に埋没した料理を再発見する③今までになかった料理をつくるという三つの方針を取り組まれてきたことを紹介。その結果、「美食の国」を求めて訪れる外国人客数がフランスに次いで2位になるなど急成長したとし、「日本

でも山梨でも、同じようにできる」と呼び掛けた。真藤さんも、ほうとうをイタリアンや中華風にアレンジしたり、地域柄を打ち出したりするアイデアを紹介。身延町の場合、地元産の湯葉や豆乳を使うことなどを提案した。また、なれずして有名な滋賀県などは、独自の食の魅力に引かれて世界中からシェフが訪れていることを紹介し、「山梨も世界中から人が集まるような場所にしていければいい」と、食による地域活性化の可能性を示した。

小学校で食育

五味さんは、「山梨は山に囲まれ食糧確保が難しい環境だからこそ、ここにいる微生物を使って発酵食品を作るなど、ここできしか出せない味が生み出せる」とし、「山梨に來ないと食べられないものがあればいいと思う」と話した。

食育についても話題に上った。五味さんは五味醤油が制作した「手前みそ」を使って、小学校などでみそ造りやほうとう作りを教える活動を約10年間続けていることを紹介。みそ造りを体験した子どもが家でもみそ汁やほうとうを食べたいと親に伝え、家庭でも食べるようになったという例を挙げ、「子どもは大人のを動かせる。子どもに伝えることはすごく意味がある」と、子どもへの食育の意義を話した。

〈桑原久美子〉

山梨日日新聞 朝刊 令和元年7月20日掲載



考える

下「健康寿命」を延ばす

「食育推進全国大会inやまなし」(農林水産省、県、甲府市など主催) 2日目は、山梨の魚の魅力を考える講演やスポーツアスリートが食について語るシンポジウムなどが行われた。キッコーマン総合病院院長の久保田芳郎さんの講演では、健康で長生きするための食を中心とした生活改善について話が展開された。

「食育全国大会やまなし」から

久保田さんは、健康寿命を提示した。

高血圧を招く

延ばすために必要な要素として、①食生活の改善②運動習慣③適切な睡眠④禁煙の四つを挙げ、中でも食生活の改善が必須であることを強調。因として、食事(動物性脂肪の取りすぎ)、運動不足、喫煙を挙げた。がんの要因では、喫煙30%、ウイルス10%に対して35%に対し、外因(食生活)、食事は35%以上であることを活を含む外部から体への作用し、食が健康の柱になっていると述べた。



「健康寿命を延ばすには食の改善が欠かせない」と話す久保田芳郎さん

食生活改善 減塩がカギ

その上で、食生活の改善には減塩が重要課題であることを強調。「基準を超える塩分摂取は高血圧を招き、高血圧は脳や心臓、腎臓、末梢動脈など多くの器官に悪影響を与える」とし、脳卒中や狭心症、慢性腎臓病などの発生要因になると注意を促した。

おいしく作る

また日本人の約半数が高血圧であることを説明し、キッコーマン総合病院で実践している「おいしい減塩食」を作る方法を紹介。①昆布や鶏ガラなどでだしをとる②うまみの出る食材を使用する③1品だけ普通の味付けにする④舌の上で味を長続きさせるため、とろみをつける⑤四つを挙げた。うまみの出る食材としてはグルタミン酸を含む昆布やのり、こまなぐ、グアニル酸のあるキノコ、コハク酸が含まれる貝類などを勧めた。最後に、健康に長生きするために食事以外で大切なこととして「生きがいと目標」を持つことを提案。老化に伴い、身体的・生理的機能や熟睡感、社会的役割の喪失が生じるとし、「喪失体験を重ねることが老化の進行を早めるとされる」と説明。「健康で長生きするため、夢に向かって全力を尽くそう」と話した。

感、社会的役割の喪失が生じるとし、「喪失体験を重ねることが老化の進行を早めるとされる」と説明。「健康で長生きするため、夢に向かって全力を尽くそう」と話した。

〈山本成美〉



高齢者の低栄養を防ぐ方法について話す田草川憲男さん(いずれも甲府・アイメッセ山梨)

高齢者 低栄養に注意

タンパク質 適切に摂取を

山梨県栄養士会会長の田草川憲男さんは、高齢者の低栄養を防ぐために必要に取り組むを紹介した。田草川さんによると、加齢とともに筋力が減り身体活動が少なくなる。と、代謝が落ちて低栄養に陥るといふ。「60歳ごろまでは、生活習慣病予防として脂質などを抑えるメタボ対策を重視するが、高齢者では筋力や心身の活力を取り戻す対策に変更し、低栄養を防ぐ生活を意識する必要がある」と指摘した。

2014年の県民栄養調査によると、肥満度を測る体格指数(BMI)が20以下で、各種栄養素が不足した低栄養傾向にある75歳以上の高齢者は、県内では男性が6・2%、女性は29・1%いた。高齢者では、細い人より少し太めの人の方が生存率が高いとするデータも示し、「BMIを年齢に合った適切な数値にすることが大事」とした。

また、1日に必要なエネルギー量は高齢になるほど少なくなるが、タンパク質の必要量は18歳も70歳以上も変わらないという。高齢になっても適度な身体活動をしなが、タンパク質を含む肉や魚介類、卵、乳製品などをバランスよく摂取することを勧めた。

〈山本成美〉

※その他

- ・日本農業新聞、西日本新聞、長崎新聞に掲載
- ・共同通信社がネットニュースに配信
- ・海外メディアもTVニュースで放送、新聞に掲載

山梨日日新聞 朝刊 令和元年6月20日掲載



KOFU CITY
こうふ開府500年
1519-2019

第14回 食育推進全国大会

in やまなし

食がつなぐ人と未来
～健康寿命日本一の富士の国やまなしから全国～

約150団体による
食育に関する展示・PRブース
飲食ブース、各種食育講演会
ワークショップ
ステージイベントなど
盛りだくさん!

日時 6/29(土) 10:00～17:00

会場 《メイン会場》山梨県立産業展示交流館アイメッセ山梨 (山梨県甲府市大津町2192-8)
屋内展示ホール・1階交流サロン・4階大会議室・屋外展示場

6/30(日) 10:00～16:00

《サブ会場》甲府駅北口よつちやばれ広場 (山梨県甲府市北口2-2-1)

入場無料
両会場間をつなぐシャトルバスを運行します。

メイン会場(アイメッセ山梨)

6/29(土) 10:30～12:00
開会式・第3回食育活動表彰 表彰式

13:00～14:30
第3回食育活動表彰 受賞事例発表会
～食がつなぐ人と未来～

15:00～16:00
食品ロス削減トークショー
ゲスト: 石田ひかりさん

13:00～14:30
「やまなしの食」を考えるシンポジウム
基調講演「郷土食の再生からの新たな展開」
講師: 服部幸應さん 他

6/29(土)・6/30(日) 両日開催
「やまなしの食」振る舞いタイム ～山梨の郷土食を試食提供～
6/29・6/30共に ①10:30～12:00 ②14:30～16:00

6/30(日) 10:15～11:30
食育推進シンポジウム
「食とスポーツアスリートトークショー」
ゲスト: 今中大介さん × 日向涼子さん

13:00～14:30
特別講演
「ギョギョツ 山梨の美味しいお魚のお話し」
講師: さかなクン

サブ会場(甲府駅北口よつちやばれ広場)

飲食ブースをはじめ、ステージショーやマーケットなど、イベントが目白押し!

6/29(土) 12:30～13:30
アスリートトークショー
ゲスト: 萩原智子さん

6/30(日) 14:30～15:30
ヴァンフォーレ甲府現役選手による食育トークショー
「ご飯のチカラ」

6/29(土)・6/30(日) 両日開催
各日限定300食販売
新潟・山梨・長野・静岡の地鶏が一皿で味わえます。

山梨日日新聞創刊記念イベント

「さんにちファミフェス」とコラボ

日時 6/29(土)・6/30(日) 10:00～17:00
会場 山田YBS本社1階7フロア、MB7フロア

北口バン広場&北口かき氷店
新聞紙宝探しプール&まつみ木広場
豪華景品付きスタンプラリー

協賛企業

JAグループ山梨

農林中央金庫

伊藤園

榎栞庵

kikkoman

山田YBSグループ

ふれあいさわやか

山梨中央銀行

あなただけのいしづかんデパート

山梨学院

おうちCO-OP 他37団体

後援

農林水産省、山梨県、甲府市、第14回食育推進全国大会山梨実行委員会

内閣府、消費者庁、文部科学省、厚生労働省、全国知事会、全国都道府県議会連合会、全国市長会、全国市議会連合会、全国町村会、全国町村議会連合会

お問い合わせ先 第14回食育推進全国大会運営事務局 株式会社アドブレン社内 担当/長田・伊藤(TEL: 055-231-3311(平日9時～17時) Email: touroku@ybs.ne.jp)

詳細情報は右のQRコードより
アクセスしてください。



第14回食育推進全国大会 in やまなし告知 篇 (15秒)

10桁CMコード

作成日 2019.6.11

O.A.期間 令和元年6月20日～6月28日 合計本数 21本

5/05



NA:

食育推進全国大会 in やまなし
29日30日開催!

3/08



イベント目白押しの二日間
入場無料

2/10



ぜひお越しください

5/15



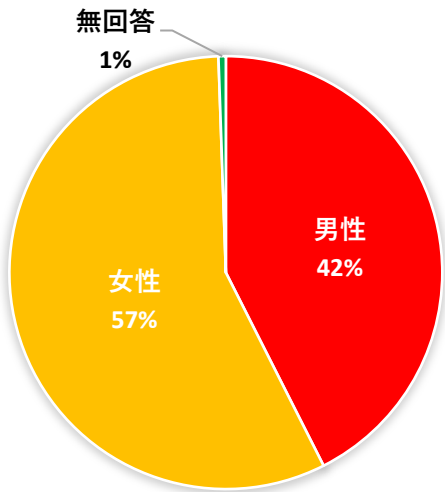
私たちは
食育推進全国大会 in やまなしを
応援しています。

Sankei
VBS
Group
アドブ레인社
AD-BRAIN

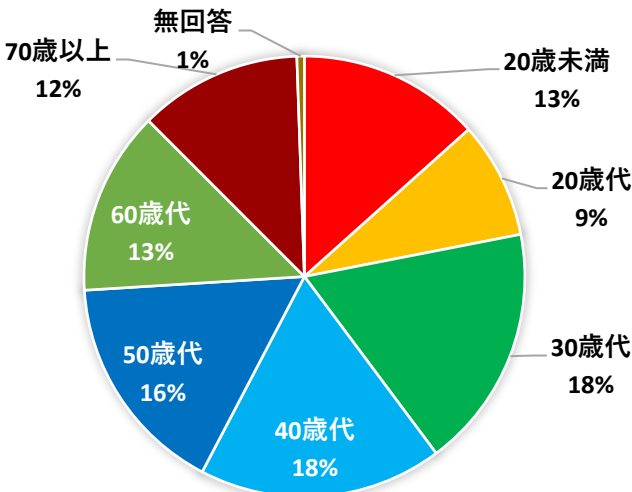
アンケート結果

●アンケート有効回答数：1,824枚
回答者について

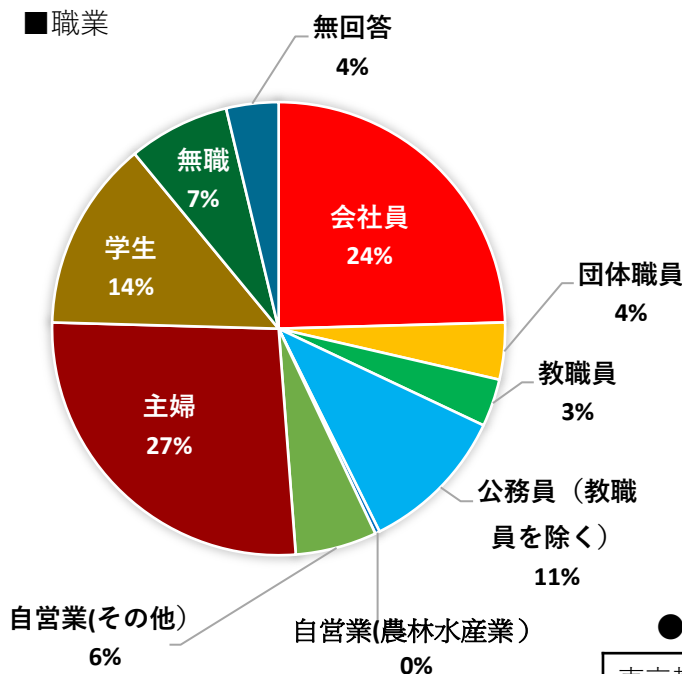
■性別



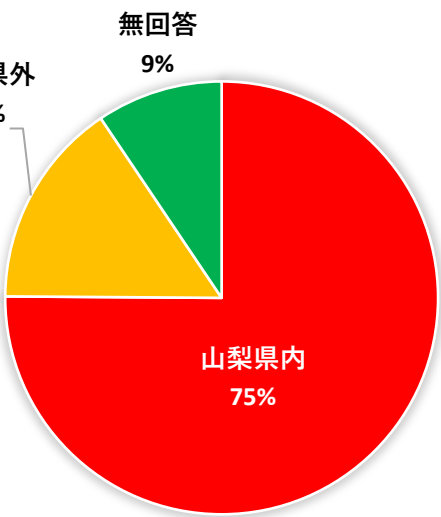
■年齢



■職業



■住所
山梨県外

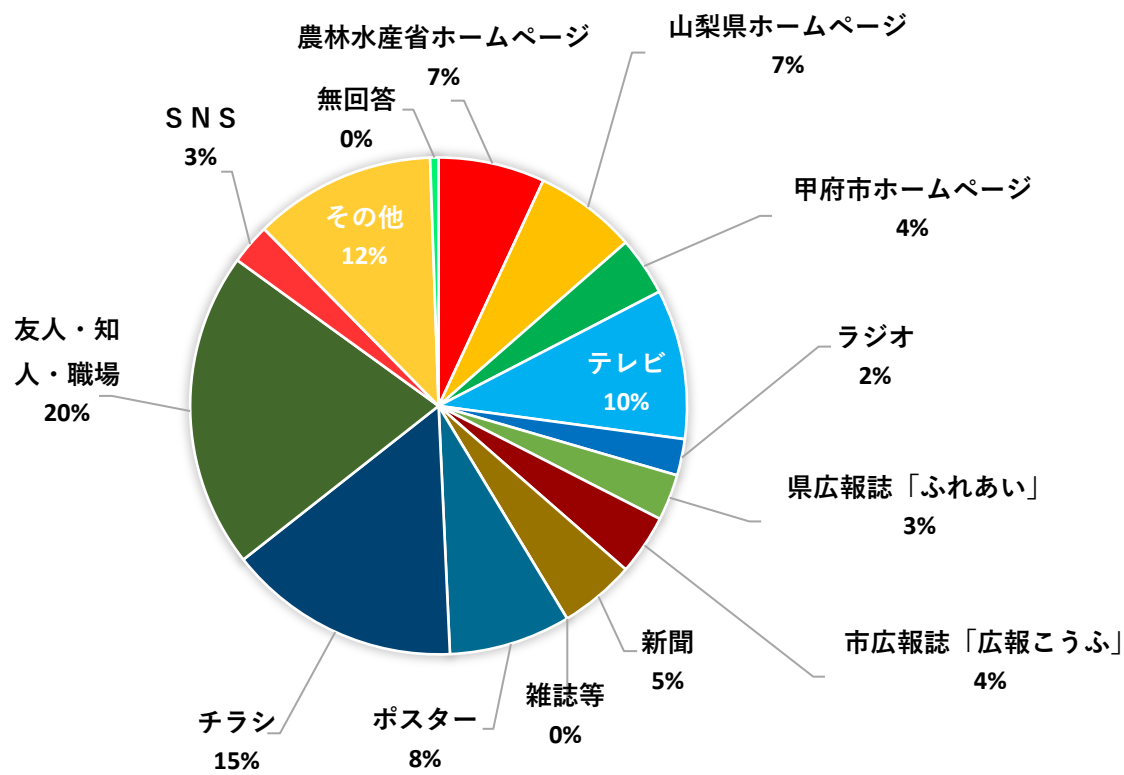


●住所内訳 (山梨県外)

東京都	56	長野県	24	福島県	1
神奈川県	36	岐阜県	1	岩手県	1
埼玉県	36	福井県	1	山形県	1
千葉県	18	大阪府	10	青森県	1
栃木県	2	兵庫県	1	沖縄県	1
群馬県	6	岡山県	1	中国	1
静岡県	15	大分県	2		
愛知県	15			未記入	52

アンケート結果

■Q.1 今回の食育推進全国大会の開催を何で知りましたか？（複数回答可）

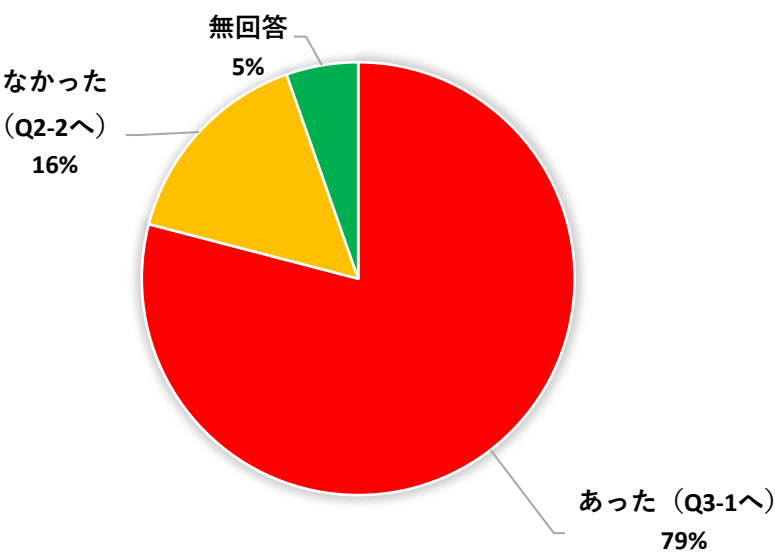


●その他の内訳

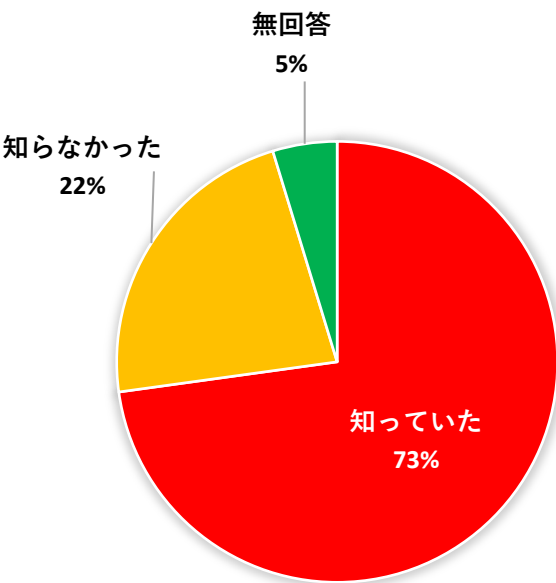
学校	121	毎年	2
食生活改善推進員から	46	甲府商業高校チアダンス	2
北口会場で知った	6	やまなし大使水萌みずの告知	2
三歳児健診	2	給食のデザート	2
甲府駅	8	出展者	14
料理教室	2	日本食育学会にて	4
アイメッセのHP・チラシ	6	すみだ食育グッドネット	2
他のイベント	6	インターネット	4
関係者	10	スーパー（オギノ）の告知	1
女性団体	2	ボランティアから聞いた	1
家族	10	栄養士会から	1
通りかかった	6		

アンケート結果

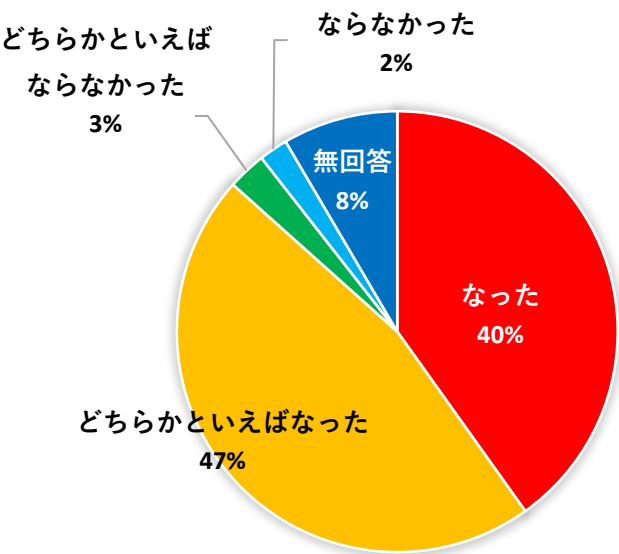
■Q.2-1 今大会にご来場いただく前から食育に関心はありましたか？



■Q.3-1 「食育」の意味を知っていましたか？

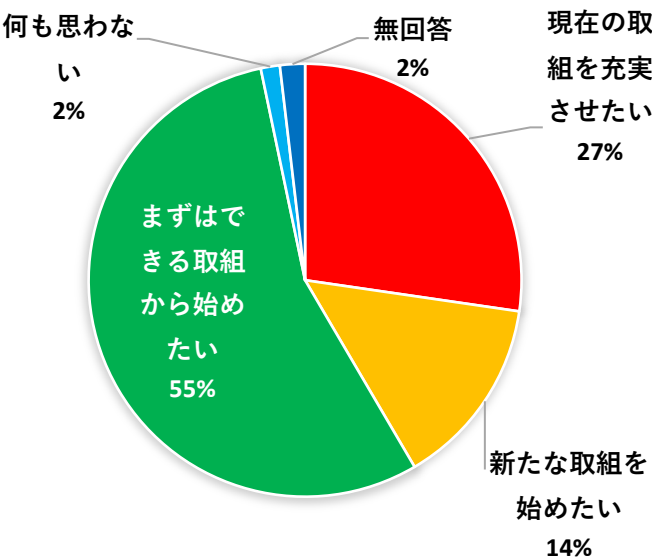


■Q.2-2 Q.2-1で、関心がなかったとお答えの方に伺います。今大会に参加して「食育」に関心が持てるようになりましたか？

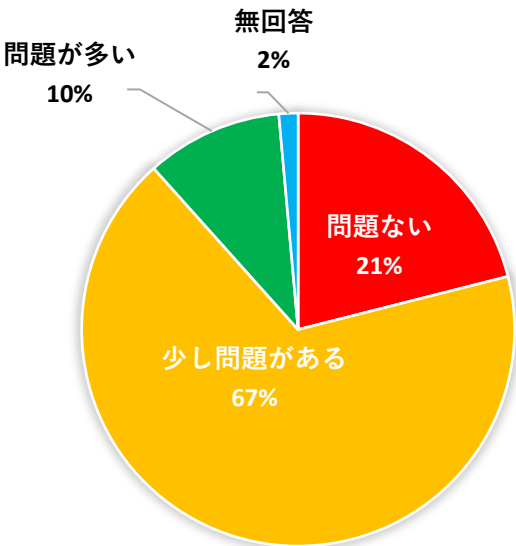


アンケート結果

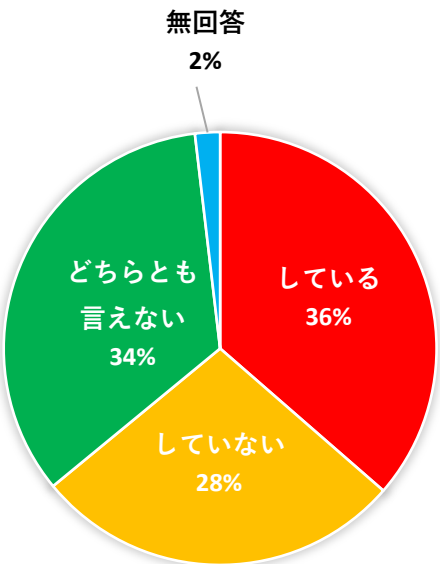
■Q.3-2 今大会に参加して、今後どのように「食育」に取り組みたいと思いましたが？



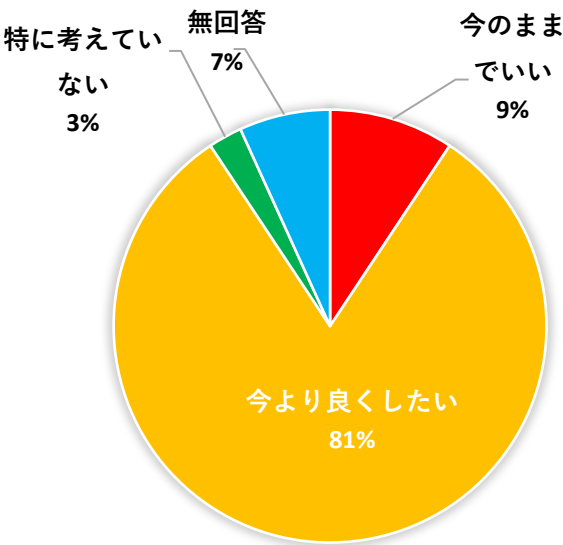
■Q.4-1 現在のご自身の食生活についてどうお考えですか？



■Q.4-2 現在、食事バランスガイドを参考にした食生活をしていますか？

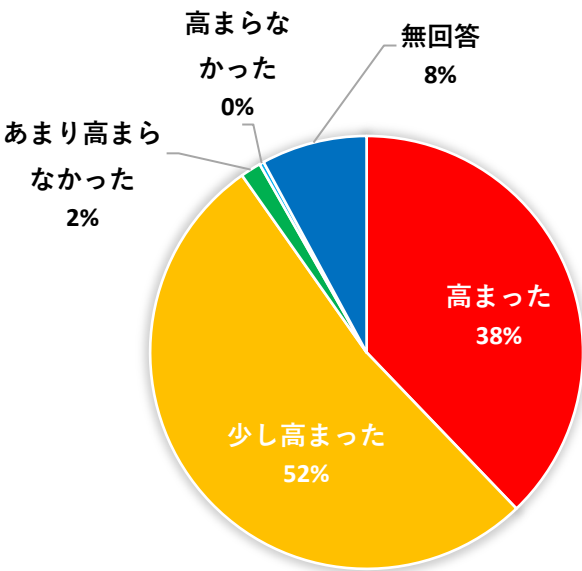


■Q.4-3 今後、ご自身の食生活についてどのようにしたいと思いますか？

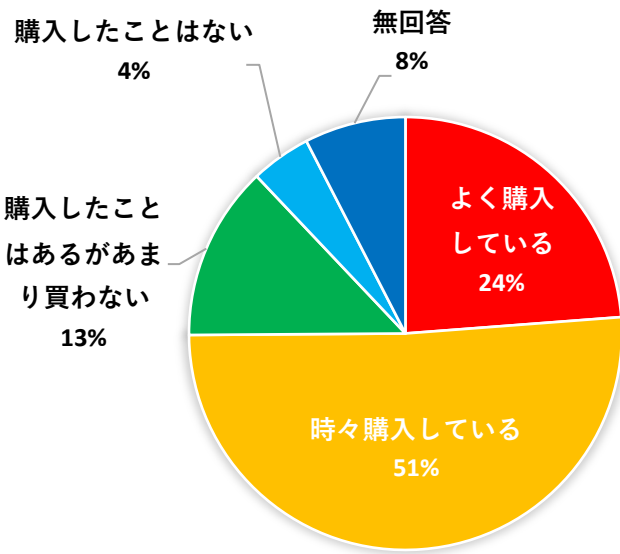


アンケート結果

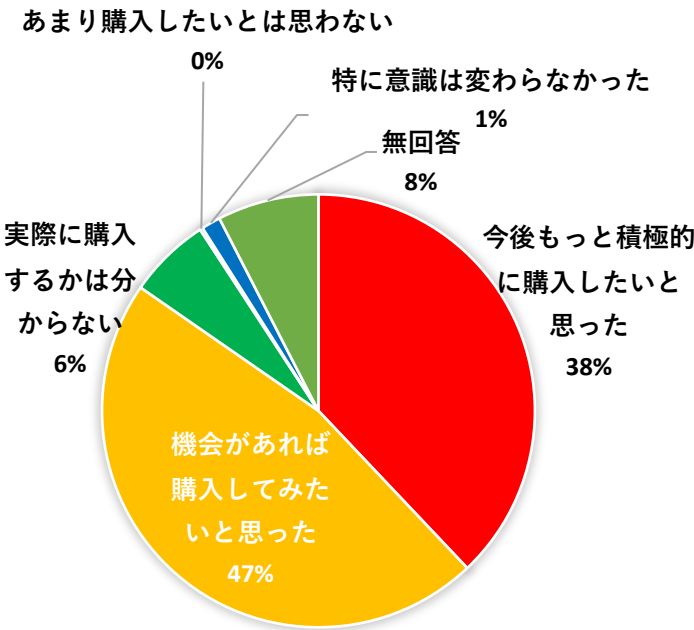
■Q.5 今大会に参加して、食文化や地産地消に関心が高まりましたか？



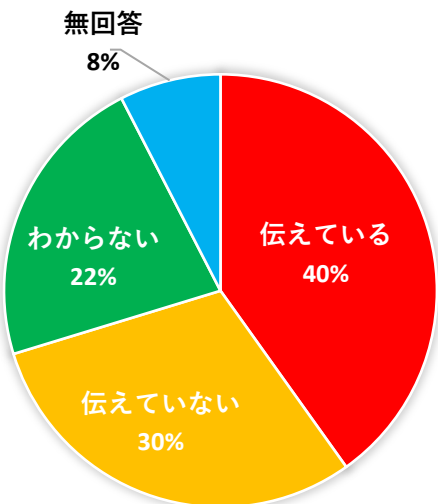
■Q. 6 -1 地域の特色を活かした魅力ある農林水産物・食品（地域産品）を日頃どの程度購入していますか？



■Q. 6 -2 来場をきっかけに「地域産品」に対する意識は変わりましたか？

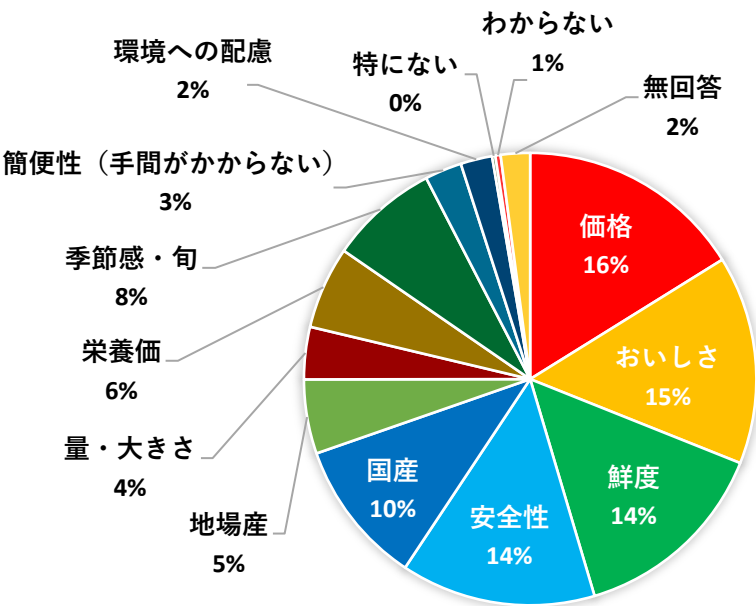


■Q. 7 -1 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法などを受け継いで、地域や次世代に伝えていきますか？

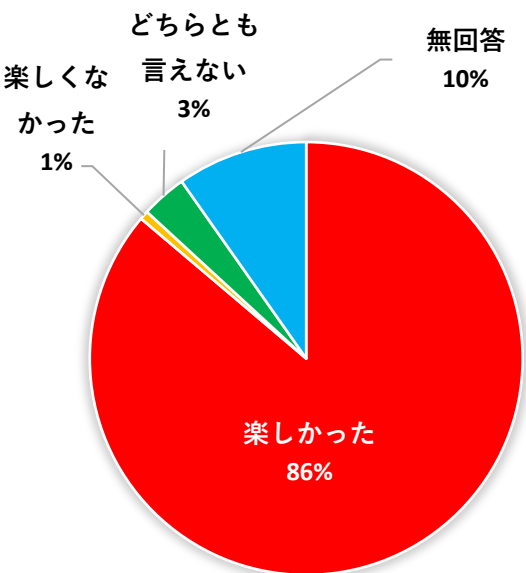


アンケート結果

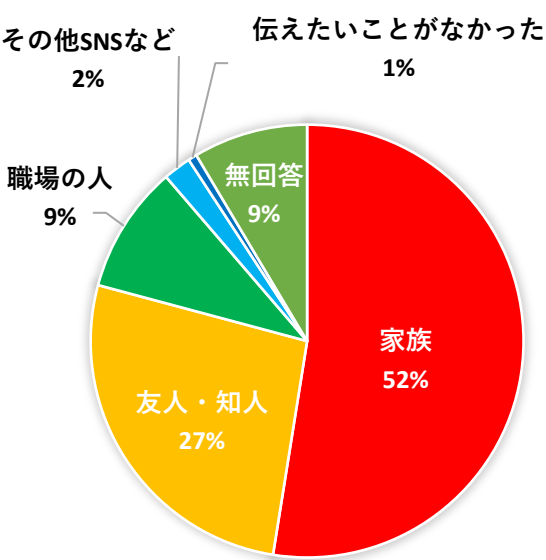
■Q.7-2 ふだん食品を選択する際にどのようなことを重視していますか？（複数回答可）



■Q.8-1 本日のイベントはお楽しみいただけましたか？



■Q.8-2 今大会で見たこと、知ったこと、体験したことを誰に伝えたいですか？



アンケート結果

■Q.8-3 本大会で、有意義だと思うブース展示やイベント（講演・ステージについて）
ご記入ください。

さかなくん講演「ギョギョ山梨の美味しいお魚のお話し」	125
だしの味比べと和食のブース	98
興味深いブースが多く、全て有意義だった。 良かった	89
アンパンマンショー	71
やまなしの郷土食の試食コーナー	51
親子で作る餃子のブース	42
水の飲み比べのブース	36
学校給食のブース	32
キッコーマンのブースと講演	27
服部先生の講演	21
キッズキッチン協会	18
A B C クッキングスタジオ 親子料理教室	17
血管年齢の測定	15
ほうとうのブース	15
アスリートのトークショー	15
ベジスコアの測定	12
トマト、牛乳、磁石で食材を釣るブース	12
No.8 4 野菜摂取量国立栄養研究所	6
牛乳などの乳製品について	6
石田ひかりのステージ	4
甲府商業のダンス	2
フードバンクやまなし	1
各ブースの方の説明が熱心で思わずこちらにも聞いたり夢中になってしまいありがたかったです	1
クイズで回答するブースがいくつかあり印象深かったです	1
文部科学省など規模が大きいところ	1
普段見られない他地域のものが見られて面白かった	1
大腸がんのトイレットペーパーおもしろかったです	1
それっぞれがわかりやすく食を考えるのに役立ちました	1
笛吹高校ひばりが丘高校の販売していてすごいと思った	1
元気な120才を創る会は参考になりました	1
全体的に体験型なので参加しやすかった	1
とうもろこしの収穫体験	1
食に関するクイズは面白く役に立った	1
やさいの摂取量を皮膚のカロチノイドを測定して数値が出るのもっと野菜をとることが必要と感じた	1
食品ロスなど自分が取り組みられそうなブースがたくさんあった	1
それぞれの会社の取り組みを説明してくれたので1つにはしぼれない	1
ふだん食べた事のなかった物が試食できたので今後購入したいと考えた	1
小さい子供達が一生懸命楽しく料理をしている姿がたいへん良かった 私の孫は少し遠くに住んでいるので一緒にいたら食に対する経験をいっぱいさせたい	1

アンケート結果

食育表彰のシンポジウムがとても良かった 勉強になった 気づきがあった	1
子供が体験してたのしい、学びにつながるブースがいくつもあった	1
高野豆腐のブースをもっと世界に発信してほしい	1
福井の大豆の系統図クイズが楽しかったです	1
食育を遊んで子供も知ることができて良かったです	1
試食、試飲のコーナー 説明をうけながら食べたり飲んだりするとよく理解できる	1
子供の料理教室に参加できた 初めて包丁を使っていて感動しました	1
豆コーヒーがおいしく良かったです	1
オギノ	1
スマート・ライフ・プロジェクト	1
キューピー	1
はくばくさん	1
タニタ	1
おうちコープ	1
山梨学院大学のブース	1
日本ソース工業会 全国トマト工業会	1
すみだ食育グッドネット	1
日本歯科医師会	1
米こうじのブース (ハナマルキ)	1
みそ玉作り	1
ハシの使い方	1
北海道のスプラウト栽培	1
バラエティミート	1
砂糖大根のブース	1
栄養士会	1
シャトレゼさん	1
関東農政局 関東食育ネットワーク	1
栄養ワンダー	1
ちーちゃんの腹話術	1
子供が楽しめるブース	1
バター作り体験	1
ウノが楽しかった	1
しょうゆ情報センター	1
うめ漬け	1
消費者庁のブース	1
農政局の講演	1

アンケート結果

■Q.9 食育を推進するにあたり、どの様な課題を感じていますか？

食に関することを子供に解りやすく楽しく教えることが必要	47
バランスの良い食生活	24
知識、情報などをより多くの人に伝えていく事	36
食に関して考える時間が無い、時間に余裕が出来るような社会にしていく事が必要	20
食に関して、若い人たちの意識と啓発が必要	14
健康が大切	12
食品の安全性が大切、外国食品への不安	12
食品ロスを少なくしたい、減らしたい	10
食生活の改善が必要、何を食べて何を減らすのか考えなければ	10
食育には興味があるが、活動する場がない	8
食生活改善推進員の活動を通じて食育を広める	6
地産地消についての取り組み	6
1日3食をきちんと食べる	4
言うは簡単、継続が難しい	4
高齢者の食支援	4
食材、食品の価格	3
地域や家庭、学校など様々な人とつながりながら行わなければいけないと思います	1
まだまだ知られていないのでまずは広めていくことが大切	1
過剰な包装、農家さんの収入が不安定で少なすぎる	1
食は大事なので皆さんに食に対してもっと関心をもってもらいたい	1
食費にかけられる価格、SES	1
まずは自分からできることをやっていきたい	1
できるだけ多くの人にこのようなイベントに参加していただき、楽しく学べるようにする	1
食育の意味をしっかりとまずは理解し出来ることから始めること	1
食育が大切ということを理解していても、実行が伴わないこと	1
家庭科授業の減少対策	1
おいしく食べる、健康に生きる	1
色々な物を食べる必要性を感じた	1
栄養士と他職種での食育推進への温度差	1
外国産のものが増えている	1
原発事故による風評被害	1
興味のない人へのきっかけづくり	1
国産品の増加（エネルギー自給率が低い）	1
食育に関する講座 料理教室を増やしてほしいと思います	1

アンケート結果

■Q.10 次回の食育推進全国大会に期待すること、改善すべきことがございましたら自由にご記入ください。

とても楽しく過ごせました。ありがとうございました。勉強になりました。また来たい	20
おむつ替えスペース増やして欲しいです	3
シャトルバスの発場所が分かりにくかった	2
良い内容なので、もっと宣伝したほうが良いと思う	2
ゴミの分別をきちんとした方が良い	2
試食でプラスチックのコップ等を使用しているが、少なくしていった方がよい。プラごみが問題になっている	2
勤めのため聞きたい講演に間に合わなかったり講演の時間が重なったりでなかなか聞きたい講演が思うように聞けず残念です。広報や新聞紙上に講演の内容をかいつまんでのせて頂けたら幸いです 2日間頑張って行きました 勉強になりました ありがとうございました	1
もっとたくさんのブースがあればと思う	1
栄養の高い食事を作りたいと思った	1
イベントの中にも真剣に討論する企画を設けて欲しい	1
食推の人がピンクのエプロンをつけたままトイレに入っていたので衛生的にも良くないと思った	1
全国的により周知をしてほしい	1
介護食をたくさん取り入れてほしい（補助）たとえばメイバランスなど	1
イベントとしてとても楽しく参加できました。また各ブースでの対応も丁寧で熱を感じました。メーカーや担当者へ生の声が聞けるのは大切な機会でした。これからもふれ会えるブース作を希望します	1
オカザえもんを呼んでほしい	1
英語、インバウンド対応	1
ぜひまたやってほしい	1
サテライト会場2か所が離れすぎ	1
飲食ブースを増やしてほしい	1
トイレの管理（清掃）時々行ってほしい。汚かったです	1
情報が少ないので多くしてほしい	1
今日初めてこの大会があることを知り、もっと多くの人が来ることができたら良かったと思いました	1
ステージ前の席がほぼ荷物になる 確保だった 座れなかった	1
年、複数回の実施を	1
幅広く活動を望みたい	1
自給率向上の対策	1
会場が二か所に分散していたけど、急な雨もあり、さかなクンの人気もあり、とても混雑していたので、もっと大きな会場一か所で開催でも良いと思った	1
一つ一つのブースをもう少し広くしてほしい	1
体験談も聞きたかった	1
暑かったので涼しくしてほしい	1
配るだけのブースは少ない方がいい	1
長い列ができたときは誘導があった方がスムーズに遊べると思いました	1
試食を増やしてください。体験ブースを増やしてください	1
より多くの人々に参加していただき食育の意識を高められる大会としていただいた	1

第14回食育推進全国大会山梨県実行委員会設置要綱

(名称)

第1条 本会は、第14回食育推進全国大会山梨県実行委員会（以下「実行委員会」という。）と称する。

(目的)

第2条 実行委員会は、第14回食育推進全国大会（以下「全国大会」という。）を円滑に開催することを目的とする。

(業務)

第3条 実行委員会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。

- (1) 全国大会の総合企画に関すること
- (2) 全国大会の開催及び運営に関すること
- (3) その他前条の目的を達成するために必要な事項に関すること

(構成)

第4条 実行委員会は、別紙1に掲げる団体及び組織の役職員をもって構成する。

(役員)

第5条 実行委員会に、次の役員を置く。

- 会長 1名
- 副会長 2名
- 監事 2名

2 会長は、山梨県知事をもって充てる。

3 副会長及び監事は、委員の互選により選出する。

(役員の職務)

第6条 会長は、実行委員会を代表し、会務を総理する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。

3 監事は、会計を監査する。

(幹事会)

第7条 実行委員会の業務を円滑に進めるため、実行委員会のもとに幹事会を置く。2 幹事会は、別紙2に掲げる役職員をもって構成する。

3 幹事会には幹事長を置き、山梨県県民生活部消費生活安全課長をもって充てる。

4 幹事会は、必要に応じて幹事長が招集する。

5 幹事長は、必要に応じて、幹事以外の関係者を出席させることができる。

6 幹事会は、第3条の業務の執行に必要な事項を協議し、処理する。

(任期)

第8条 会長、副会長、監事及び委員の任期は、実行委員会が設立された日から第

12条の規定により解散する日までとする。ただし、委員及び役員が就任時の団体又は組織の役職を離れた場合は、その後任者が、前任者の残任期間を努めるものとする。

（会議）

第9条 実行委員会の会議は、次の各号に掲げる事項を議決する。

- （1）実行委員会設置要綱の制定及び変更に関する事項
- （2）全国大会の基本方針に関する事項
- （3）事業計画及び予算に関する事項
- （4）事業報告及び決算に関する事項
- （5）その他必要な事項

2 会議は、必要に応じて会長が招集し、委員の過半数の出席をもって成立する。

3 会議は、会長が議長を務める。

4 委員が会議に出席できないときは、委員の所属機関又は団体から代理人を出席させ、議決権の行使を委任することができる。

5 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

6 会長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

7 会長が必要と認めたときは、委員に対し、書面により意見を求め、その回答をもって会議の審議に代えることができる。

8 第1項の規定にかかわらず、会長は、緊急を要するときは、会議で議決すべき事項を専決することができる。なお、専決した事項については、次の会議に報告するものとする。

（事務局）

第10条 実行委員会の事務を処理するため、山梨県県民生活部消費生活安全課内に事務局を設置する。

（経費）

第11条 実行委員会の経費は、負担金、交付金、協賛金及びその他収入をもって充てる。

（解散）

第12条 実行委員会は、第2条の目的を達成した後、速やかに事業報告及び決算報告を行い、解散する。

（残余財産）

第13条 全国大会終了後、残余財産がある場合は、会議の審議を経て処分するものとする。

（雑則）

第14条 この要綱に定めるもののほか、実行委員会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

1 この要綱は、平成30年7月23日から施行する。

第14回食育推進全国大会山梨県実行委員会名簿		
	団体名	役職
学識経験者	山梨大学	生命環境学部教授
	山梨学院大学	健康栄養学部長
	山梨学院短期大学	事務局長
	山梨県立大学	人間福祉学部准教授
	帝京学園短期大学	保育科専任講師
関係団体	公益社団法人山梨県栄養士会	会長
	山梨県食生活改善推進員連絡協議会	会長
	一般社団法人山梨県医師会	会長
	一般社団法人山梨県歯科医師会	会長
	一般社団法人山梨県薬剤師会	会長
	公益社団法人山梨県看護協会	会長
	一般社団法人山梨県食品衛生協会	会長
	山梨県料理学校協会	会長
教育機関	山梨県公立小中学校長会	会長
	山梨県高等学校長協会	会長
	山梨県公立学校食育推進研究会栄養士部会	会長
	山梨県PTA協議会	会長
	公益財団法人山梨県学校給食会	理事長
	山梨県保育協議会	会長
関係業界	山梨県農業協同組合中央会	会長
	山梨県商工会議所連合会	会長
	山梨県商工会連合会	会長
	公益財団法人やまなし産業支援機構	理事長
	山梨県中小企業団体中央会	会長
	山梨県食品産業協議会	会長
	公益社団法人やまなし観光推進機構	理事長
	東日本旅客鉄道株式会社	甲府駅長
ボランティア・生活	あしたの山梨を創る生活運動協会	会長
	山梨県生活学校連絡会	会長
	山梨県消費生活研究会連絡協議会	会長
	山梨県生活協同組合連合会	会長
	山梨県連合婦人会	会長
	社会福祉法人山梨県社会福祉協議会	会長
報道関係	山日YBSグループ	局長
	株式会社テレビ山梨	代表取締役社長
	日本放送協会甲府放送局	部長
	株式会社エフエム富士	副本部長
行政	山梨県	知事
	甲府市	市長
	山梨県市長会	会長
	山梨県町村会	会長
	関東農政局	局長

第 1 4 回食育推進全国大会山梨県実行委員会幹事会 名簿	
団体名	役職
山梨学院短期大学	保育科特任講師
公益社団法人山梨県栄養士会	理事
山梨県食生活改善推進員連絡協議会	事務局
山梨県中小企業団体中央会	地域開発課長
山梨県農業協同組合中央会	J A 支援部長
山梨県県民生活部	消費生活安全課長
山梨県教育委員会	スポーツ健康課長
甲府市福祉保健部健康支援センター	健康増進課長

1 第14回食育推進全国大会山梨県実行委員会 第1回会議

日 時：平成30年7月23日（月）14：00～16：00

場 所：山梨県庁防災新館4階 409会議室

議 題：・第14回食育推進全国大会山梨県実行委員会について
・第14回食育推進全国大会について

2 第14回食育推進全国大会山梨県実行委員会 第1回幹事会

日 時：平成30年8月3日（金）14：00～16：00

場 所：山梨県庁防災新館3階 303会議室

議 題：・幹事会の役割・今後のスケジュールについて
・第14回食育推進全国大会inやまなし企画案について
・協賛金について

3 第14回食育推進全国大会山梨県実行委員会 第2回幹事会

日 時：平成31年2月12日（火）13：30～16：30

場 所：山梨県庁本館2階 県民生活部会議室

議 題：・平成31年度事業計画について
・平成31年度収支予算について
・大会開催までのスケジュールについて

4 第14回食育推進全国大会山梨県実行委員会 第2回会議

日 時：平成31年2月21日（木）14：00～15：00

場 所：ホテル談露館 2階 クリスタル

議 題：・平成31年度事業計画について
・平成31年度収支予算について
・大会開催までのスケジュールについて

5 第14回食育推進全国大会山梨県実行委員会 第3回会議（予定）

議 題 ・第14回食育推進全国大会inやまなし結果報告について
・令和元年度収支決算（案）について

分野	No	団体・企業名	分野	No	団体・企業名	分野	No	団体・企業名
金融	1	甲府信用金庫	食品	21	株式会社澤田屋	その他	41	生活クラブ生活協同組合
	2	都留信用組合		22	サントリープロダクツ株式会社		42	株式会社テレビ山梨
	3	山梨県民信用組合		23	株式会社シャトレゼ		43	東京ガス山梨株式会社
	4	山梨信用金庫		24	株式会社信玄食品		44	東京電力パワーグリッド株式会社
	5	株式会社山梨中央銀行		25	株式会社テンヨ武田 武田食品株式会社		45	東横INN 甲府駅南口Ⅰ・甲府駅南口Ⅱ
流通	6	株式会社アマノ		26	株式会社はくばく		46	農林中央金庫
	7	株式会社いちやまマート		27	株式会社平野屋		47	一般社団法人富士山の天然水の聖地 富士吉田市公民連携協議会
	8	株式会社オギノ		28	富士食品工業株式会社		48	ホテル内藤グループ
食品	9	株式会社アルプス		29	不動食品物産株式会社		49	学校法人山梨学院
	10	株式会社伊藤園		30	株式会社湊與		50	山梨県商工会連合会
	11	株式会社ASフーズ		31	山梨県漬物協同組合		51	山梨県食品産業協議会
	12	オオタ総合食品株式会社		32	山梨ヤクルト販売株式会社		52	山梨県生活協同組合連合会
	13	オギノ食糧株式会社	その他	33	株式会社アドヴォネクト		53	山梨県中小企業団体中央会
	14	株式会社かいや		34	株式会社エフエム富士		54	山梨県土地改良事業団体連合会
	15	カゴメ株式会社		35	株式会社オオキ		55	公益財団法人やまなし産業支援機構
	16	株式会社桔梗屋		36	甲府商工会議所			
	17	キッコーマン株式会社		37	山日YBSグループ			
	18	キュービー株式会社		38	JAグループ山梨			
	19	金精軒製菓株式会社		39	生活協同組合パルシステム山梨			
	20	甲信食糧株式会社		40	生活協同組合ユークロップ			

55団体・企業

協賛金額：4,780千円

※ 分野毎の団体・企業名は50音順



第14回食育推進全国大会inやまなし

食がつなぐ人と未来
～健康寿命日本一の富士の国やまなしから全国へ～

主催

農林水産省、山梨県、甲府市、第14回食育推進全国大会山梨県実行委員会